


「えき～まち空間」基本計画

(案)



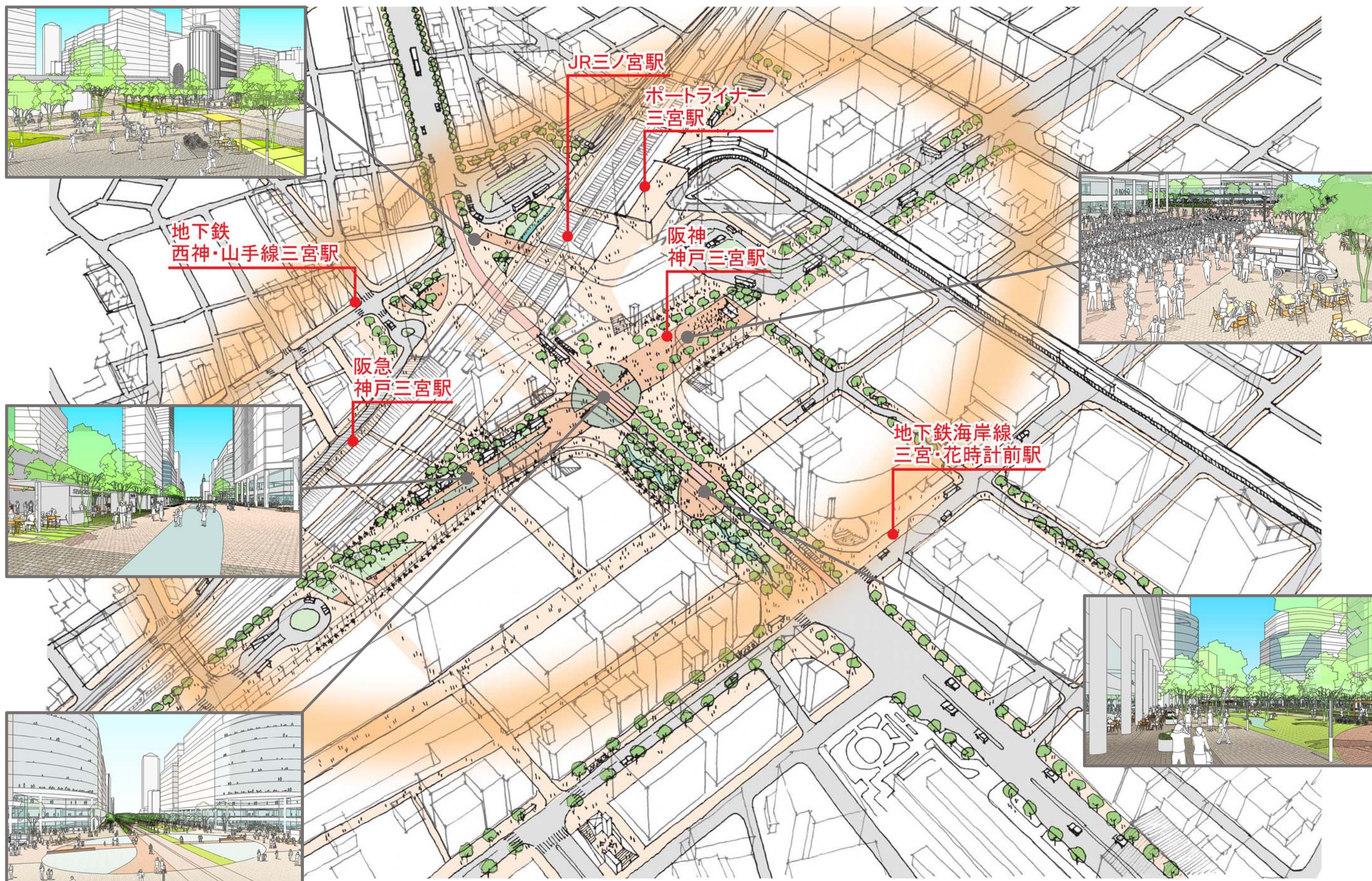
神戸がかわる
都心再整備 

平成 29 年 11 月

神戸市

『えき～まち空間』

- ① 三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間
- ② 「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間
- ③ 美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間



1. 基本計画策定の背景と目的	1
(1) 基本計画策定の背景	1
(2) 「えき～まち空間」とは.....	1
(3) 基本計画策定の目的と構成.....	2
2. 「えき～まち空間」の構成と特性	3
(1) 構成と特性	3
(2) 空間構成の要素と求める視点	4
3. 「えき～まち空間」の整備の考え方	5
3-1 空間の考え方	5
(1) 基本的な考え方	5
(2) 公共施設の整備の考え方	6
(3) 「三宮クロススクエア」のゾーニングとイメージ.....	7
3-2 交通の考え方	9
(1) 基本的な考え方	9
(2) 歩行者交通.....	9
(3) 公共交通・自動車交通	13
(4) 都心における交通体系	17
3-3 景観の考え方	23
(1) 基本的な考え方	23
(2) 景観デザインコードの設定.....	24
(3) 地域との協働と参画による景観づくり	28
4. 「えき～まち空間」を活かす協働のしくみ	29
(1) 「えき～まち空間」の公共空間の利活用・管理運営の考え方	29
(2) 民間事業との協働のしくみ.....	30
5. 今後の進め方	31

1. 基本計画策定の背景と目的

(1) 基本計画策定の背景

震災から 20 年余りを経過し、新たなステージを歩み始めた神戸市は、市民と民間事業者、行政が協働で都心の再生を実現し、世界に貢献できる国際都市として発展していくことを目指して、平成 27 年 9 月に神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]及び三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定しました。

三宮駅周辺は「乗り換え動線がわかりにくい」「駅から周辺のまちへのつながりが弱い」「玄関口にふさわしい特色ある景観がない」等の課題があります。そのような中、基本構想では、目指すべき将来像「**美しき港町・神戸の玄関口“三宮”**」を掲げ、まちづくりの5つの方針に沿って、神戸の新しい象徴となる「えき～まち空間」を創出して、三宮周辺地区全体の魅力向上を図ります。

＜まちづくりの5つの方針＞

1 笑顔で歩く
歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ

2 気持ちよく動ける
誰にでもわかりやすい交通結節点へ

3 誘う魅力が溢れる
いつ来てもときめく出会いと発見を

4 海・山、神戸らしさを感じる
人を惹きつけ心に残るまちへ

5 支え、まもり育て、発信する
地域がまちを成長させる

- 不測の災害に対しても対応可能な、確かな防災力
- 環境に優しく持続可能なまち

(2) 「えき～まち空間」とは

三宮周辺地区全体の魅力向上のためには、6つの駅を含む中心エリアの再整備が不可欠です。そのため、「えき」(6つの駅とバス乗降場)と「まち」をつなぐ空間を「えき～まち空間」と名付け、誰にとっても使いやすい、神戸の玄関口にふさわしい空間として整備します。

また、「えき～まち空間」の核として、三宮交差点を中心に税関線(フラワーロード)と中央幹線の一部において、人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」を創出します。

＜「えき～まち空間」のイメージ＞



「えき～まち空間」の目標像

- 三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間
- 「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間
- 美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間

1. 基本計画策定の背景と目的

(3) 基本計画策定の目的と構成

「えき～まち空間」の実現には、行政と民間事業者が今後整備する施設について、相互に空間計画を調整し、各施設的设计に反映させていくプロセスが必要不可欠です。

そのため、「三宮クロススクエア」をはじめとする公共施設の計画や、民間施設に期待される機能や設えなどについて、**官民共通の具体的な目標像及びその実現に必要な取り組み**を示すことを目的に「えき～まち空間」基本計画を作成します。

基本計画では、「えき～まち空間」の整備の考え方として、特に重要な視点となる「空間」「交通」「景観」についての考え方をまとめるとともに、「えき～まち空間」を活かす協働のしくみについてまとめています。

<「えき～まち空間」基本計画の構成>

1. 基本計画策定の背景と目的

2. 「えき～まち空間」の構成と特性

3. 「えき～まち空間」の整備の考え方

3-1 空間の考え方

3-2 交通の考え方

3-3 景観の考え方

4. 「えき～まち空間」を活かす協働のしくみ

5. 今後の進め方

2. 「えき～まち空間」の構成と特性

(1) 構成と特性

多くの公共交通機関が集まり、様々な都市機能が高度に集積した三宮駅周辺は、神戸市都市計画マスタープランにおいて「都心核」と位置づけられており、商業・業務機能、文化・交流機能のさらなる集積と良好な景観の形成や、交流・融合の場となるオープンスペースの創出などにより、神戸の玄関口にふさわしい風格のある都市空間の形成が求められています。

「えき～まち空間」は、東西方向の中央幹線、南北方向の税関線（フラワーロード）をまちの骨格となる都市軸とし、この2つの都市軸の中心の「三宮クロススクエア」と個性あふれる魅力的な「まち」で構成されます。

「三宮クロススクエア」はこれらの空間をつなげる重要な役割を担い、「えき」と「まち」とのつながりを強化し、各「まち」の特性を活かした魅力的な「まち」づくりを、地域との協働と参画により進めていきます。

1) 2つの都市軸

● 東西軸<にぎわいと活力の軸>

東西軸は、商業・業務機能が集積する三宮から元町方面をつなぐ重要な役割を担い、新たな人の流れを生み出すとともに、JR、阪急、阪神、バスターミナル等の交通結節機能の強化を図ります。そのため、周辺の民間施設とあわせて日常的ににぎわいや活力を創出する軸とします。

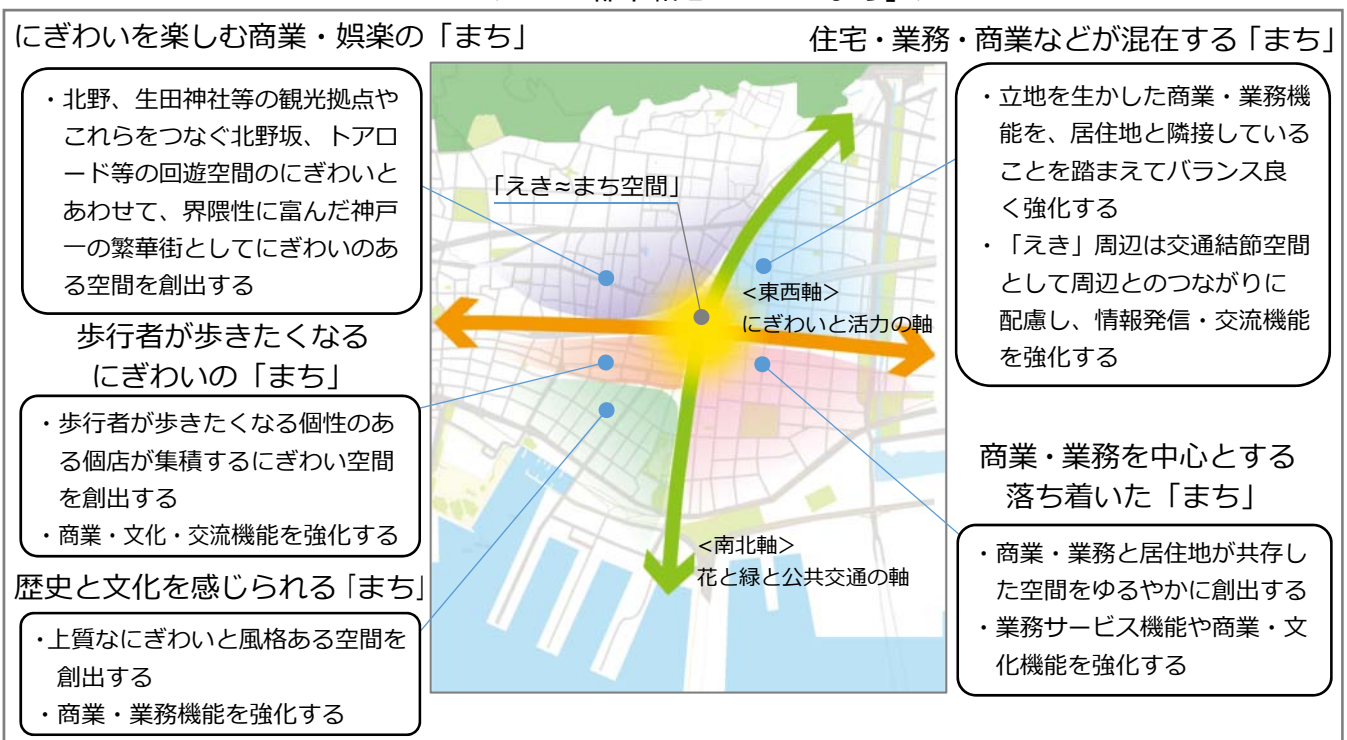
● 南北軸<花と緑と公共交通の軸>

南北軸は、山から海をつなぐ神戸らしい街と自然が身近に感じられ、新神戸駅、神戸港、神戸空港から訪れる人のアプローチ空間として重要な役割を担います。そのため、人と公共交通中心の花と緑を備えた落ち着いた憩い滞留できる軸とします。

2) 5つの「まち」

「三宮クロススクエア」周辺には個性あふれる魅力的な5つの「まち」があります。「まち」の特性を踏まえて将来の「まち」のあり方を検討します。

<2つの都市軸と5つの「まち」>



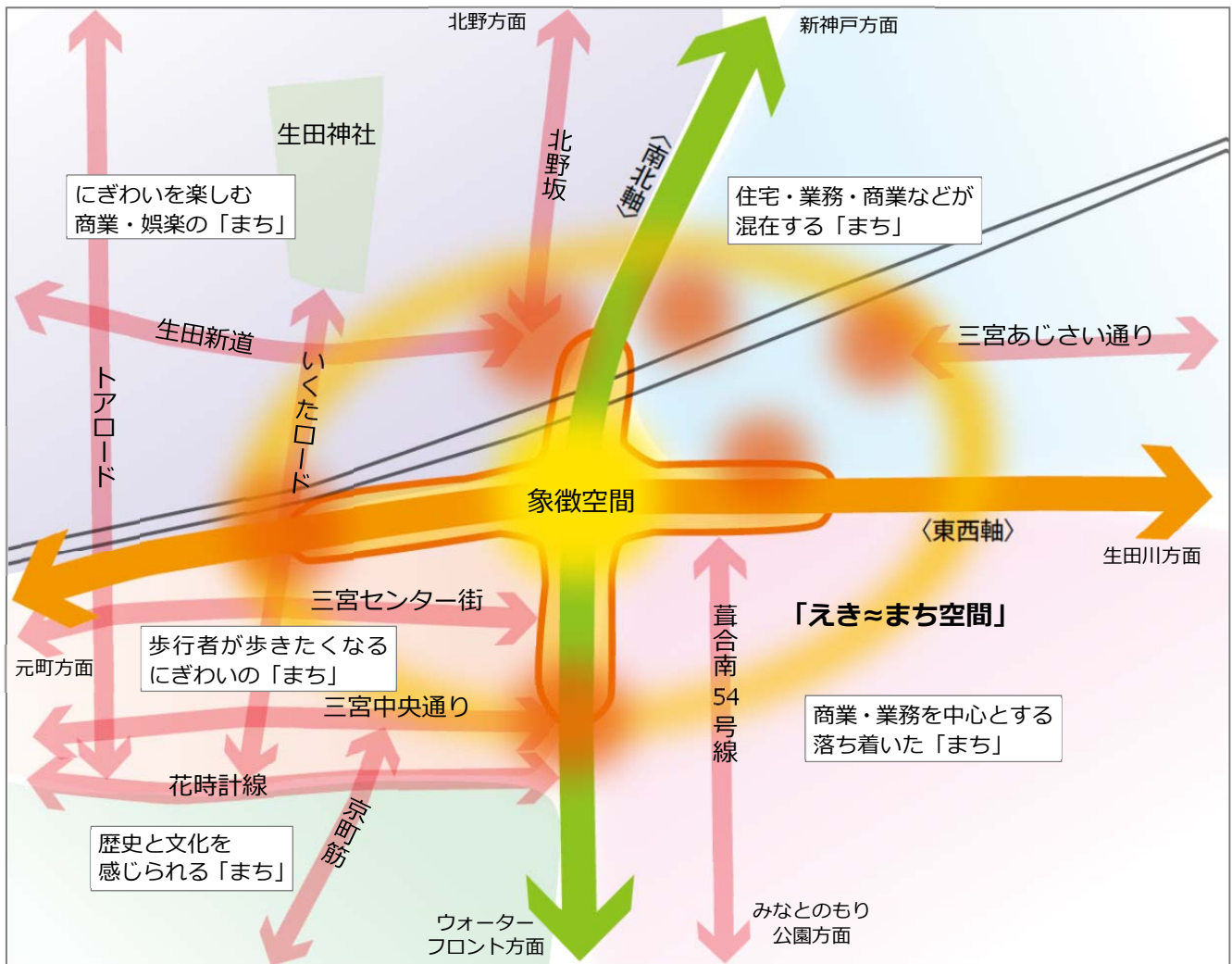
2. 「えき～まち空間」の構成と特性

(2) 空間構成の要素と求める視点

「えき～まち空間」を実現するために必要となる周辺の「まち」の特性や将来の「まち」のあり方を十分に踏まえ、空間構成の要素と求める視点についてまとめます。

要素	凡例	求める視点
都市軸		・都市軸の特性を活かした空間づくり
三宮クロススクエア		・人と公共交通優先の人々の活動の拠点となる象徴的な空間づくり ・公共空間と沿道建築物が一体となったにぎわいづくり
象徴空間 (三宮交差点)		・2つの都市軸の交点となり、「三宮クロススクエア」と「まち」との重要な結節点であるため、公共空間と沿道建築物が一体となったエントランス空間の確保と「象徴空間」としての顔づくり
「えき」と「まち」との結節点		・「えき」から「まち」へのアプローチ空間として魅力的な空間づくり
「えき～まち空間」と一体となって回遊性を担う「通り」		・「えき～まち空間」と周辺の魅力的な「まち」とのつながりや回遊性を意識した空間づくり
「通り」と「通り」の結節点		・「通り」の特性を踏まえた魅力的な空間づくり

＜空間構成の要素と求める視点 イメージ図＞



3. 「えき～まち空間」の整備の考え方

3-1 空間の考え方

(1) 基本的な考え方

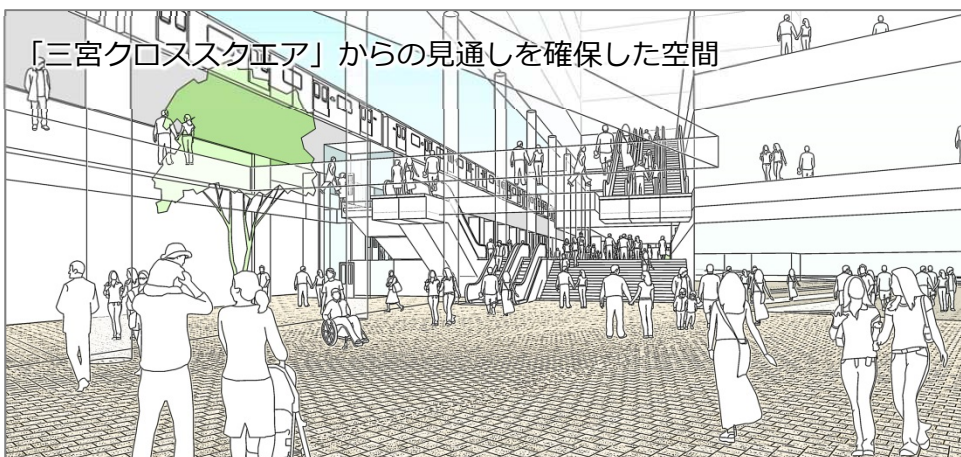
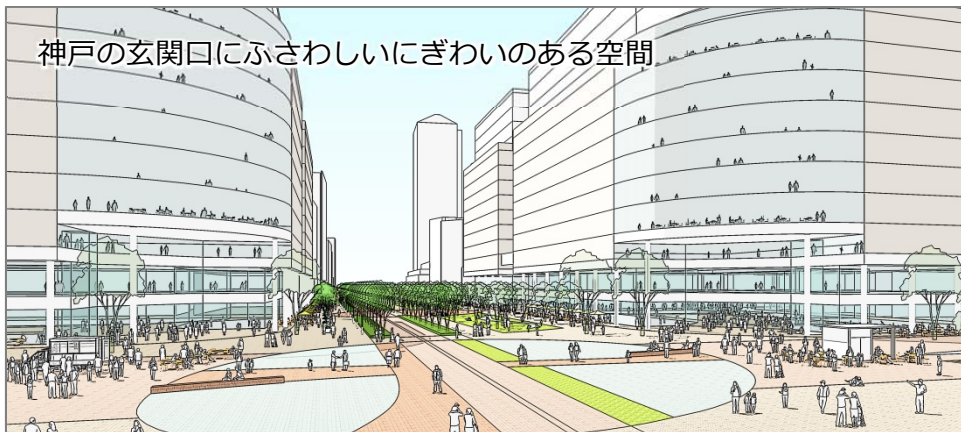
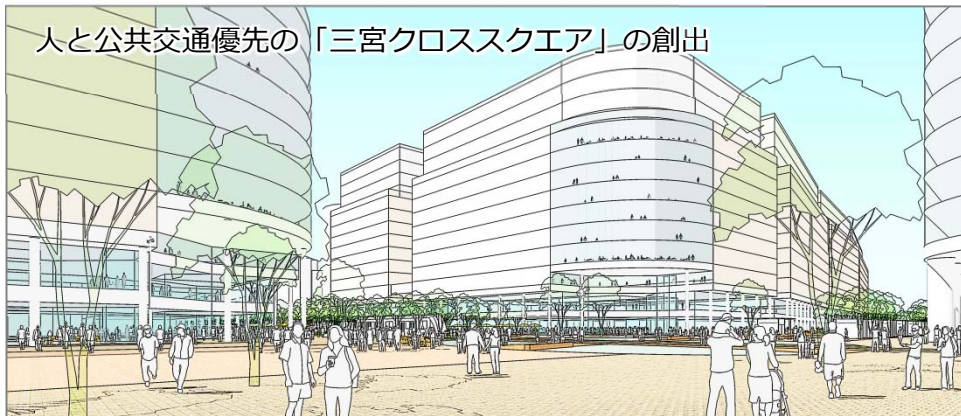
「えき～まち空間」は、快適で利便性が高く、美しい景観が備わり、様々な市民活動が展開される場とします。

ここでは、行政が中心となって整備する道路や広場等の「公共施設」と周辺の「民間施設」の公共的な空間を「公共空間」とし、官民の連携によって一体的な空間を整備していきます。

この「えき～まち空間」は、神戸の玄関口にふさわしいにぎわいのある空間とし、「三宮クロススクエア」と「えき」、「まち」との見通しを確保するとともに、わかりやすくユニバーサルデザインにも配慮した空間とします。

また、災害時に機能するオープンスペースや緊急車両の通行空間の確保、植栽や水景等により自然を取り入れた空間の創出等、防災や環境にも配慮した空間づくりを行います。

<「えき～まち空間」のイメージ>



(2) 公共施設の整備の考え方

「公共空間」を構成する主要な「公共施設」として、「三宮クロススクエア」「駅前広場・歩行者空間（デッキ等）」「新たなバスターミナル」について整備を進めます。

1) 「三宮クロススクエア」

多くの車両が行き交う道路を、人と公共交通優先の空間に転換し、神戸の玄関口である三宮に降り立った人が、豊かな自然と都市の活力が共存する神戸独自の魅力・神戸らしさを身近に感じられる空間を創出します。

また、南北方向には誰にとっても使いやすい公共交通軸としての空間を確保します。

2) 駅前広場・歩行者空間（デッキ等）

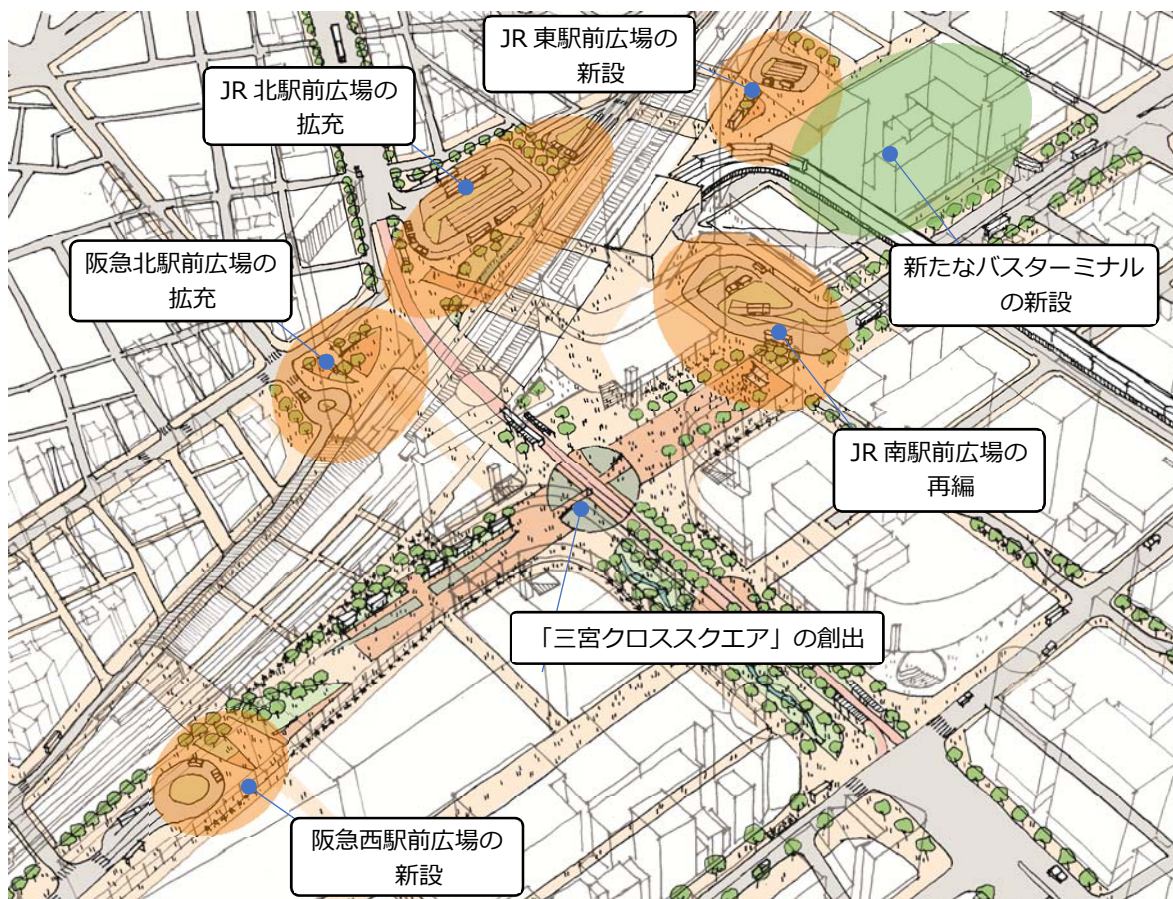
駅前広場の再編、拡充、新設を行います。整備にあたっては、「三宮クロススクエア」との一体性に配慮するとともに、歩行者や自動車の動線を意識し、見通しを確保したわかりやすく利便性の高い空間とします。

また、歩行者の「えき」から「えき」への乗換動線や、「まち」へのつながりを意識し、地上はもとよりデッキや地下の歩行者空間ネットワークの再構築を周辺民間施設の開発にあわせて行います。

3) 新たなバスターミナル

三宮駅周辺に分散している中・長距離バス乗降場を集約し、交通結節点としての大幅な機能強化を図るとともに、都市間競争において選ばれるための魅力・活力を創造する都心にふさわしい高質な都市機能の集積を図ることで、人の移動のみならず情報や文化交流等を受発信する新たな玄関口を創出します。

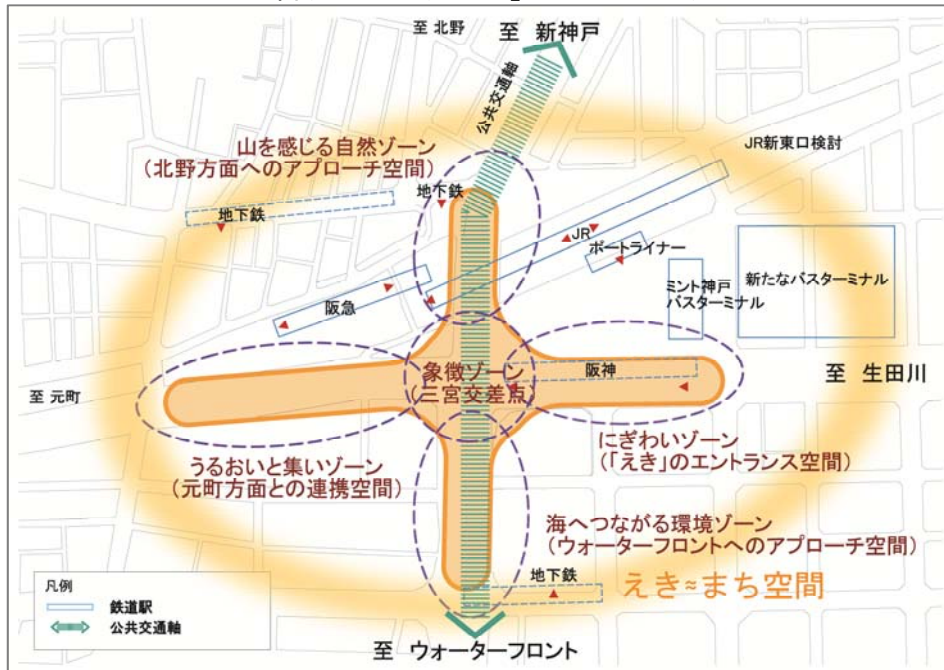
<公共施設の整備イメージ>



(3) 「三宮クロススクエア」のゾーニングとイメージ

公共空間と沿道建築物が一体となった、にぎわい空間の創出を図るため、都市軸や、周辺の「まち」の特性を踏まえ、「三宮クロススクエア」を5つにゾーニングします。

＜「三宮クロススクエア」のゾーニング＞

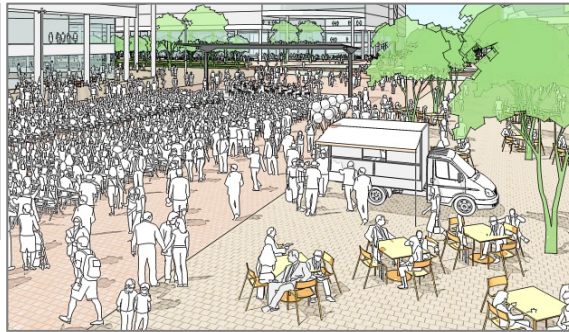


にぎわいゾーン(東)

JR、ポートライナー、阪神等の鉄道駅、バスターミナル等があり、乗換動線をわかりやすくするとともに、日常的なにぎわいや大規模なイベントにも対応できる「にぎわいゾーン」として位置づけます。



現況



将来イメージ



イメージ写真

うるおいと集いゾーン (西)

北に高架下商店街、南にセンタープラザ等があり、元町方面へつながる通り空間として人が集い憩うための「うるおいと集いゾーン」として位置づけます。



現況



将来イメージ



イメージ写真

山を感じる自然ゾーン（北）

JR の北側と阪急の北側の広場が一体となった歩行者空間を確保し、六甲山を望む新たな視点場を設けるとともに、北野方面へのアプローチ空間として「山を感じる自然ゾーン」として位置づけます。



現況



将来イメージ



イメージ写真

象徴ゾーン（中央）

三宮交差点は、2つの軸を連結する場であると同時に、神戸の玄関口“三宮”を印象づける場として、神戸の「顔」にふさわしい空間を形成する「象徴ゾーン」として位置づけます。



現況



将来イメージ



イメージ写真

海へつながる環境ゾーン(南)

三宮交差点から東遊園地を経てウォーターフロントへ誘う空間を確保し、花と緑の連続や海へのつながりを意識した「海へつながる環境ゾーン」として位置づけます。



現況



将来イメージ



イメージ写真

(1) 基本的な考え方

「えき～まち空間」では、地上においては人と公共交通優先の空間である「三宮クロススクエア」を創出し、民間施設も活用しながら地下・地上・デッキの3層をボイド[※]でつなぐことにより、上下移動しやすい空間とします。

その結果、「えき」と「まち」が平面的にも立体的にもつながることで、6つの駅があたかも1つの大きな「えき」となり、「えき」と「まち」が行き来しやすく、高齢者や子育て世代の方等、誰にとってもより便利で回遊性の高い空間となります。

「えき～まち空間」を含む都心を歩行者が中心のまちにするため、総合的な交通体系を、「自動車」、「歩行者」及び「公共交通」の3つの視点から考えます。

ここでは、「えき～まち空間」の交通について、「歩行者交通」、「公共交通・自動車交通」に分類して考え方を示すとともに、「都心における交通体系」をまとめて示します。

(2) 歩行者交通

- 「えき」から「えき」への乗り換えをわかりやすくし、誰もが移動しやすい動線を確保します。
- 歩行者空間を充実し、「えき」から「まち」への回遊性を向上させます。

1) 乗換動線の改善 <6つの駅をあたかも一つの大きな「えき」ととらえた歩行者動線>

空間としてのわかりやすさ、移動しやすさを確保するため、

- ・ 経路の見通しをできる限り確保します。
- ・ 周辺民間施設の開発にあわせて、高低差がある場所はわかりやすい位置にエレベーター、エスカレーターを設置します。
- ・ 通路は十分な幅員と高さを確保します。

その他、誰もがわかりやすい案内サインを充実します。

改善すべき動線：阪急・阪神・JR⇔ポートライナー、阪急⇔地下鉄（西神・山手線）、
新たなバスターミナルへの動線 等

※ ボイド

民間事業者と協力し、地下・地上・デッキの歩行者動線が交わる地点に、

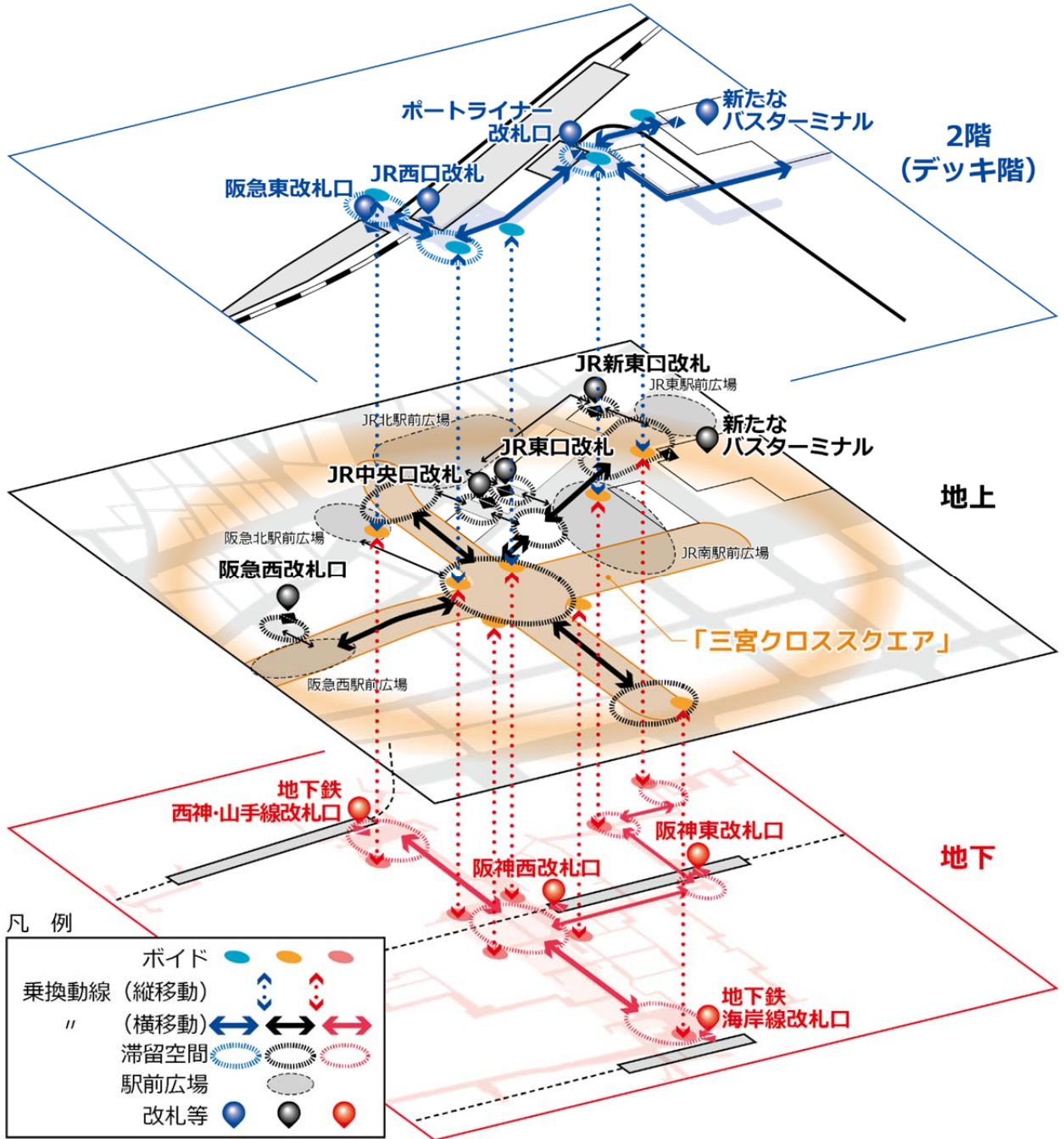
- ・ わかりやすい縦動線
(エレベーター、エスカレーター等)
- ・ 滞留空間 (各階)

を配置し、より移動しやすい空間を整備します。
(三宮交差点の四隅等)

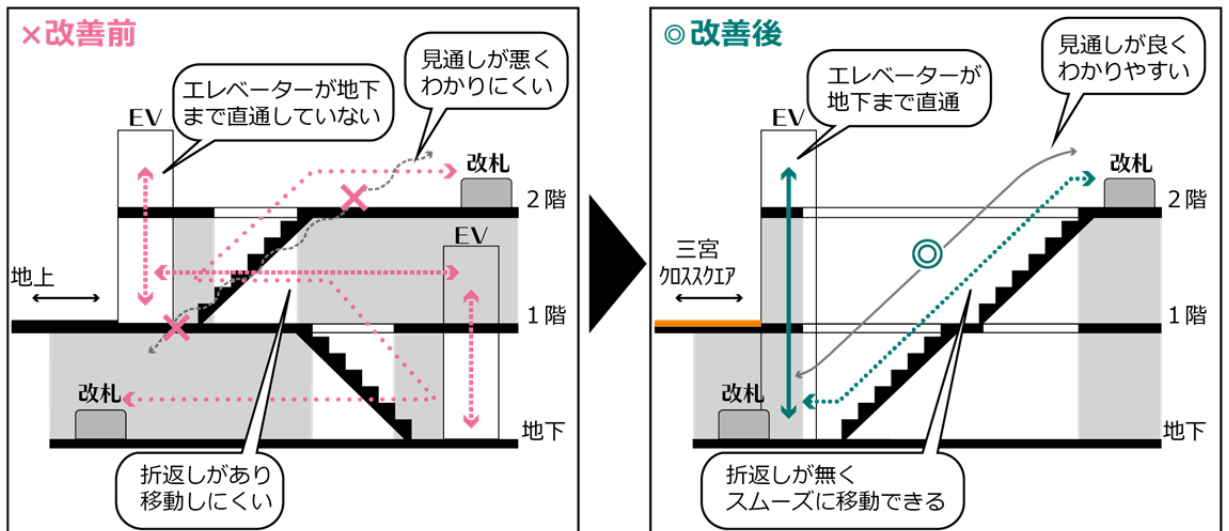


ボイドイメージ (神戸国際会館)

<乗換動線のイメージ>



<改善イメージ>

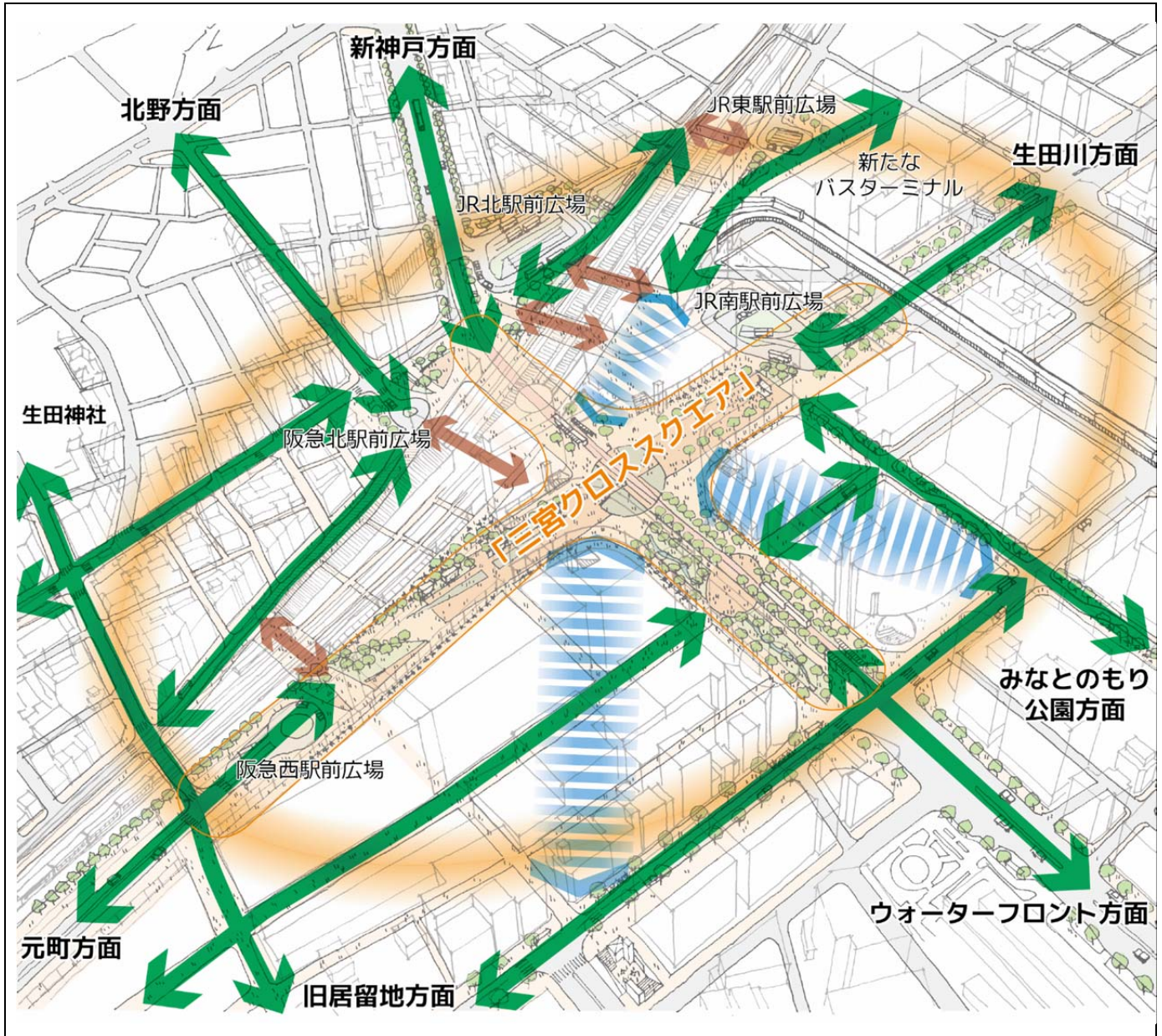


3-2 交通の考え方

2) 「えき」から「まち」への回遊性の向上 <「えき」と「まち」が行き来しやすく>

- ・「えき～まち空間」内や「えき～まち空間」と周辺の「まち」をつなぐ動線について、より歩きやすい空間に強化します。
- ・周辺民間施設の開発にあわせて、民間施設と一体となった「えき」から「まち」への見通しのよい歩行者空間を確保します。
- ・鉄道によって分断感のある南北の「まち」のつながりを改善します。

<「えき」から「まち」への回遊性のイメージ>



凡例

- 歩行者回遊動線の強化
- 周辺民間施設と一体となった歩行者空間の確保
- 鉄道南北の「まち」をつなぐ歩行者動線の改善

歩行者空間ネットワーク

神戸市では、歩行者が快適に街を回遊し、また、複数の交通機関の乗り換えがしやすいよう、地下・地上・デッキの歩行者動線を「3層ネットワーク構想」として推進してきました。近年では、ユニバーサルデザインの視点から、エレベーター等の整備により3層ネットワークを上下方向に連絡する取り組みも進めています。

今後は、「えき～まち空間」を実現するために、「まち」へつながる地上の動線と、「えき」をつなぐ地下・地上・デッキの動線を強化し、歩行者空間ネットワークを再構築します。

【デッキの考え方】

- ・乗換動線となるデッキを整備し利便性を向上させます。
(例：阪急東改札口⇔ポートライナー改札口)
- ・新たなバスターミナル周辺や駅前広場等、自動車やバスが通る箇所の横断デッキを整備します。

【地下の考え方】

- ・地上を補完する安全で快適な地下の歩行者空間を確保します。
- ・周辺民間施設の開発とあわせて、地下通路の見通しの改善を図ります。
- ・歩きたくなるような地下空間のにぎわいを創出します。

<改善すべき歩行者動線>



段差のある歩行者動線



歩行者とバスが交錯する歩行者動線

3-2 交通の考え方

(3) 公共交通・自動車交通

- 駅前広場を再編、拡充、新設し、「えき～まち空間」や交通結節点である駅まで近寄りやすい環境を整備します。
- 「えき～まち空間」内に移動支援の拠点を設け、誰もが移動しやすい環境を整備します。

1) 公共交通の利便性の向上

① 公共交通（バス・タクシー等）の考え方

路線バス・タクシー・中長距離バス

- ・「三宮クロススクエア」の創出にあわせ、駅前広場を再編、拡充、新設するとともに、路上に分散しているバスやタクシーの乗降場を方面別に集約し、利便性とわかりやすさを向上させます。
- ・「三宮クロススクエア」の南北方向に公共交通軸を設け、回遊交通の主軸とし、都心内外の公共交通の利便性を向上させます。
- ・中長距離バスは、新たなバスターミナルに集約し利便性とわかりやすさを向上させます。

② 公共交通を補完する移動支援の考え方

モビリティ・スポット、パーソナルモビリティ等

- ・「えき～まち空間」内の歩行者ネットワーク上や公共交通と乗り継ぎしやすい位置に、移動支援の拠点として、『情報発信』、『休憩施設』、他の交通への『結節機能』を兼ね備えた「モビリティ・スポット※¹」を配置します。
- ・「モビリティ・スポット」には、「えき～まち空間」内や周辺の「まち」への移動支援として、電動車いすやベビーカー等の貸し出し、パーソナルモビリティ※²等の利用にも対応できる環境を整備します。

<移動支援の例>



ベビーカーや車いすの貸し出し



自転車タクシー

※1 モビリティ・スポット

『情報発信』『休憩施設』他の交通手段との『結節機能』のイメージ

周辺 MAP、案内サイン等
地域の魅力を伴った
『情報発信』

駅周辺案内 観光案内 バス案内



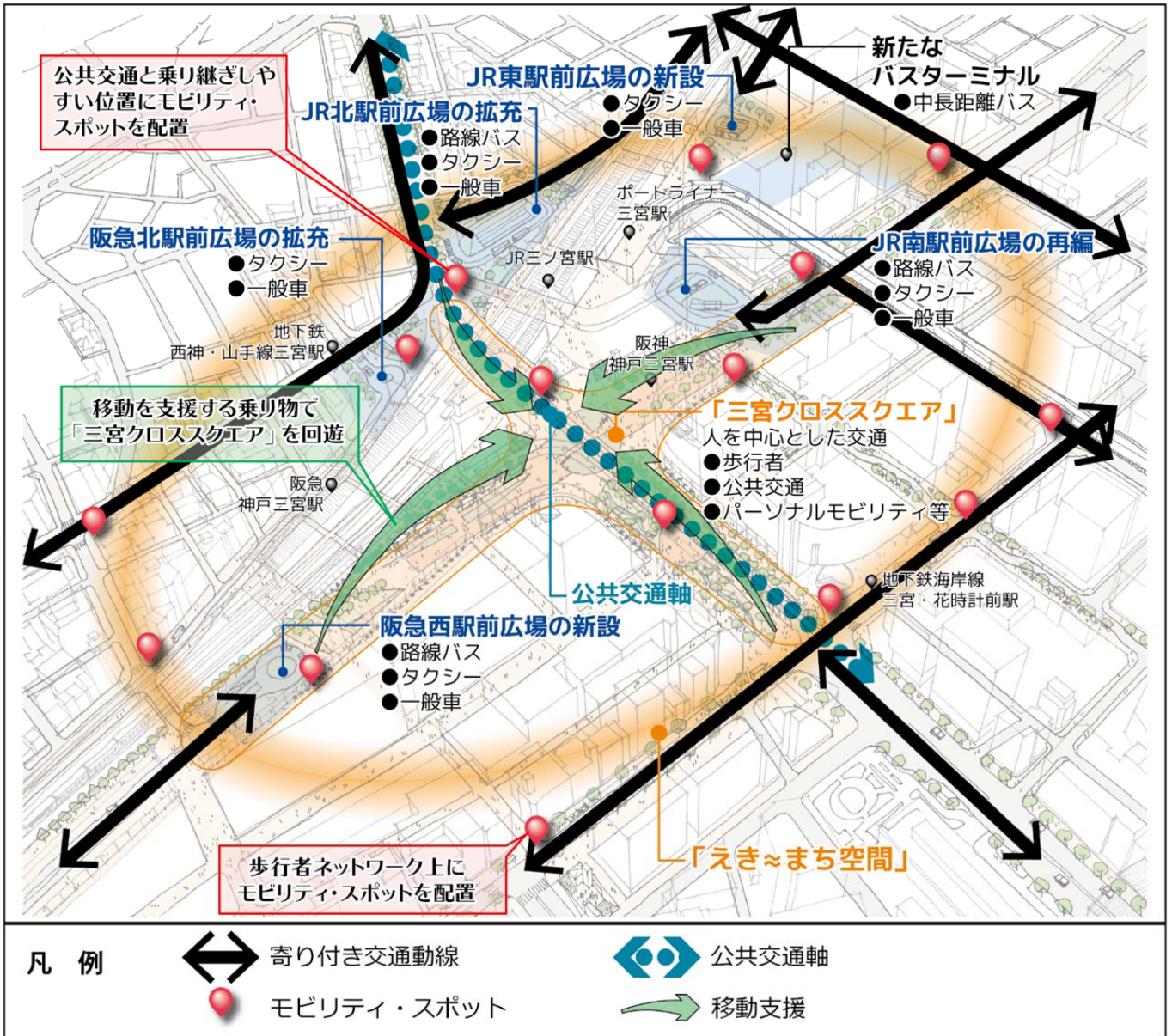
木陰やベンチ等の
ちょっとした
『休憩施設』



歩行者と他の交通手段
(自転車や公共交通)との
『結節機能』



＜「えきまちな空間」における移動のイメージ＞



※2 パーソナルモビリティ

電気自動車や自動運転等の先進的な技術を用いた、歩行者の移動を支援する目的で開発されたコンパクトな乗り物



東京モーターショー2017 より

3-2 交通の考え方

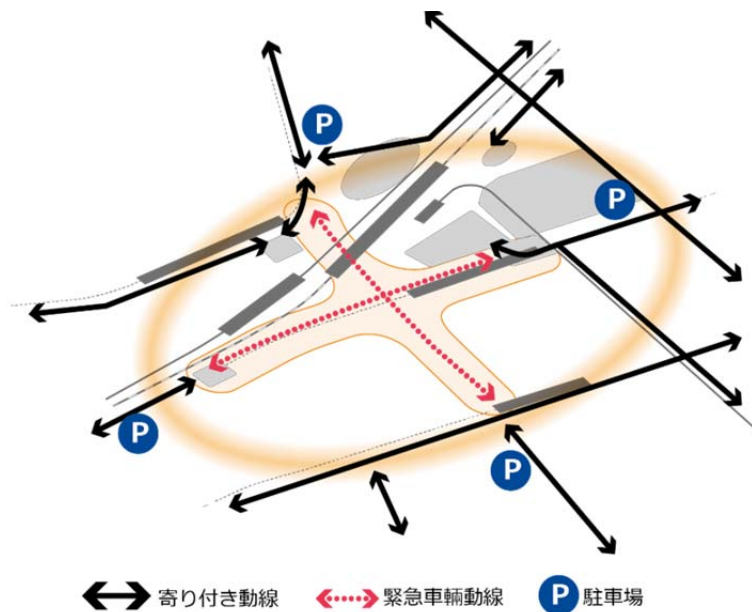
2) 自動車交通の利便性の確保

① 寄り付き交通車両・緊急車両の考え方

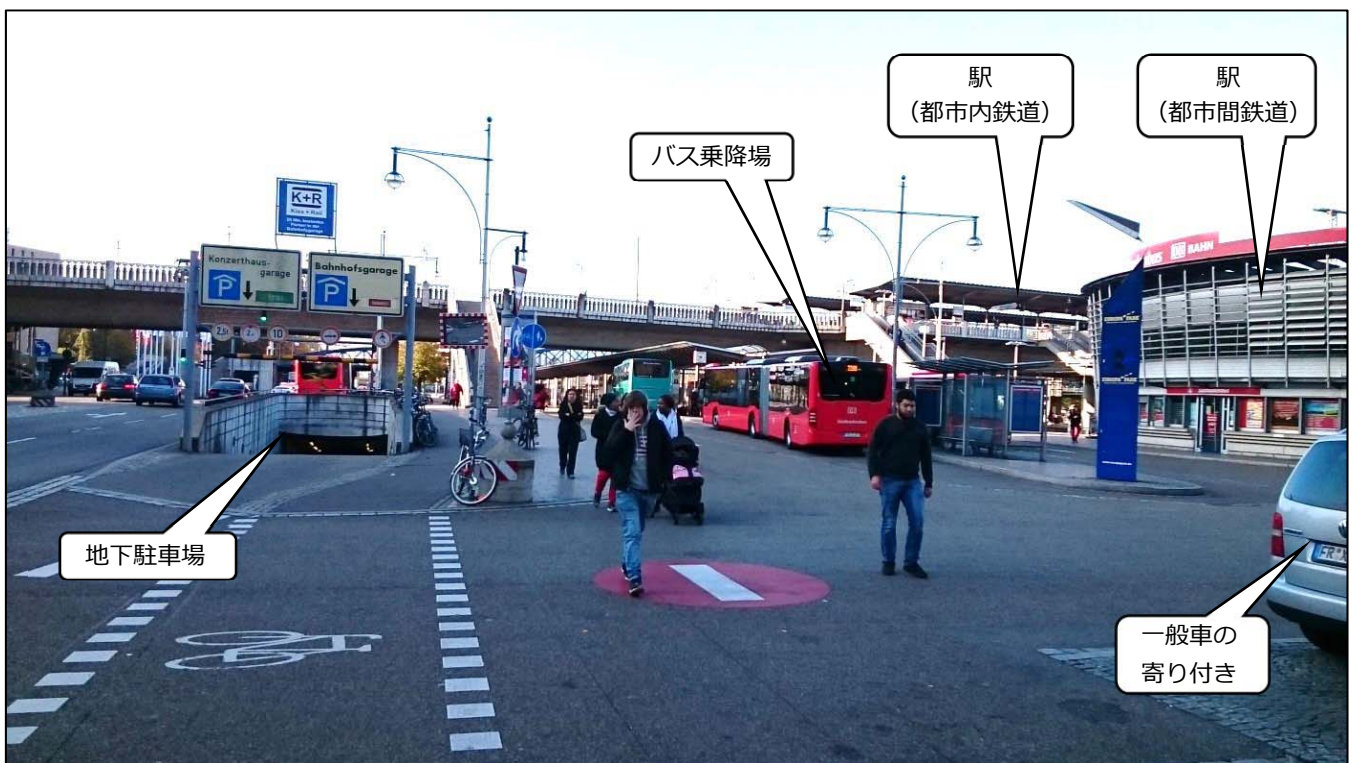
自家用車・バイク・自転車および緊急車両等

- ・ 駅（駅前広場）または「えき～まち空間」内の施設の利用を目的とした寄り付き交通車両のための動線を確保します。
- ・ 自家用車で駅の寄り付きを必要とする方や、まちなかに用事がある自家用車やバイク、自転車利用者にとって使いやすい、駅前広場や周辺の駐車場、駐輪場を確保します。
- ・ また、「モビリティ・スポット」を活用することで「えき～まち空間」内の移動を支援します。
- ・ 「三宮クロススクエア」には緊急車両の通行や、消防、救急及び災害時の活動に必要な空間を確保します。

<寄り付き交通車両・緊急車両の動線イメージ>



<駅周辺の整備例（ドイツ フライブルク駅前広場）>



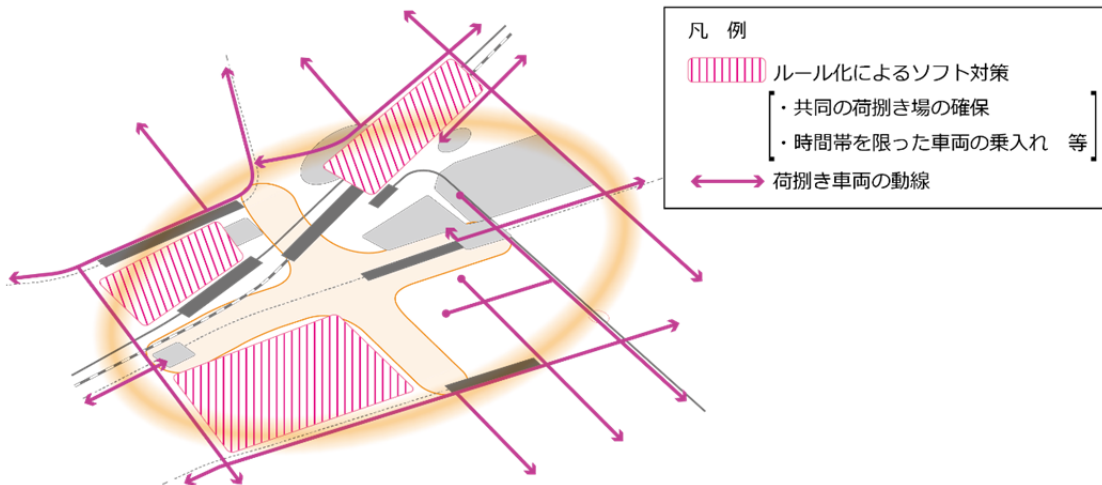
3-2 交通の考え方

② 業務用車両の考え方

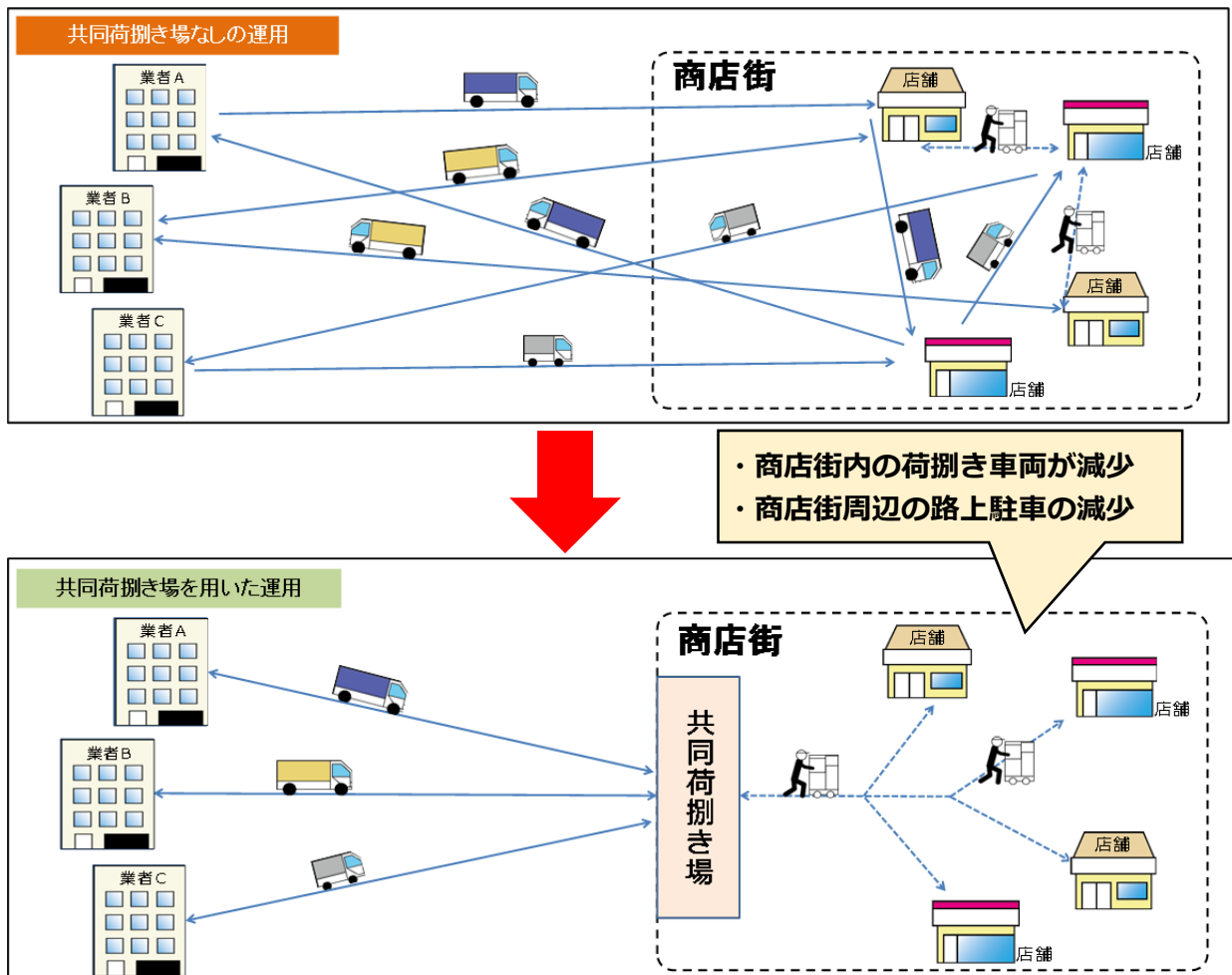
荷捌き車両・工事用車両・ごみ収集車等

- ・施設ごとに荷捌きに必要スペースを確保することを基本とします。
- ・施設ごとに確保できない箇所については、共同荷捌き場の確保や、時間帯を限った公共空間の活用などルール化によるソフト対策といった柔軟な運用方法を検討します。
- ・運用方法の検討にあたっては、地域の方と話し合いながら、安全で利便性の高いものとなるよう進めます。
- ・運用方法の検討では、工事用車両やごみ収集車等についても配慮します。

<業務用車両（荷捌き車両）の動線イメージ>



<共同荷捌き場での荷捌き運用例>



(4) 都心における交通体系

北野・元町・ウォーターフロント等を含む都心において、歩行者が中心のまちの実現に向けた交通体系の見直しを行うため、「自動車交通のマネジメント」「歩行環境の向上」「公共交通など多様な交通手段の確保」の3つの視点を踏まえた総合的な交通体系とします。

1) 各交通モードの基本的な考え方

自動車交通のマネジメント

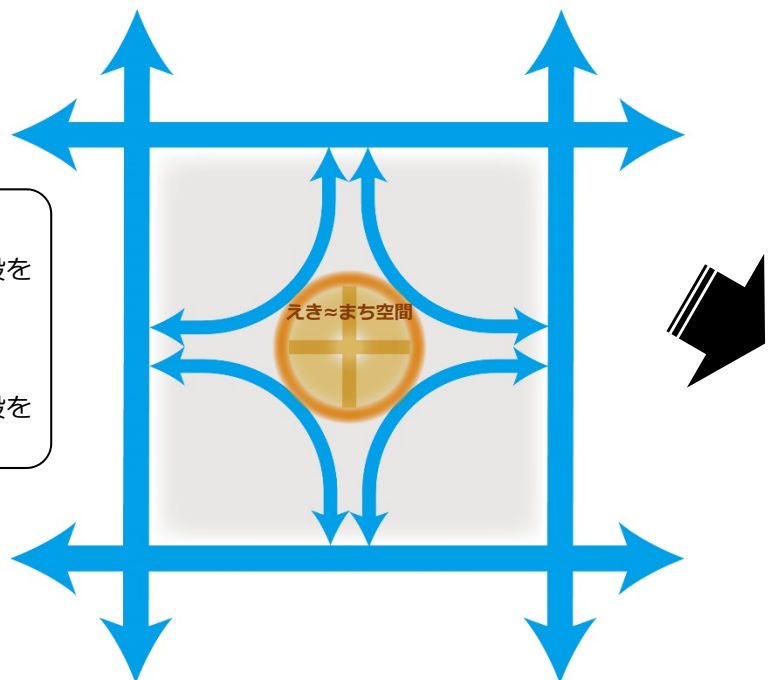
- ・ 通過交通^{※1}の円滑な処理
- ・ 寄り付き交通^{※2}の利便性の確保
- ・ 公共交通の利便性向上による自動車からの転換

※1 通過交通

「えき～まち空間」、またはその周辺施設を目的地とせず、都心を通過する交通

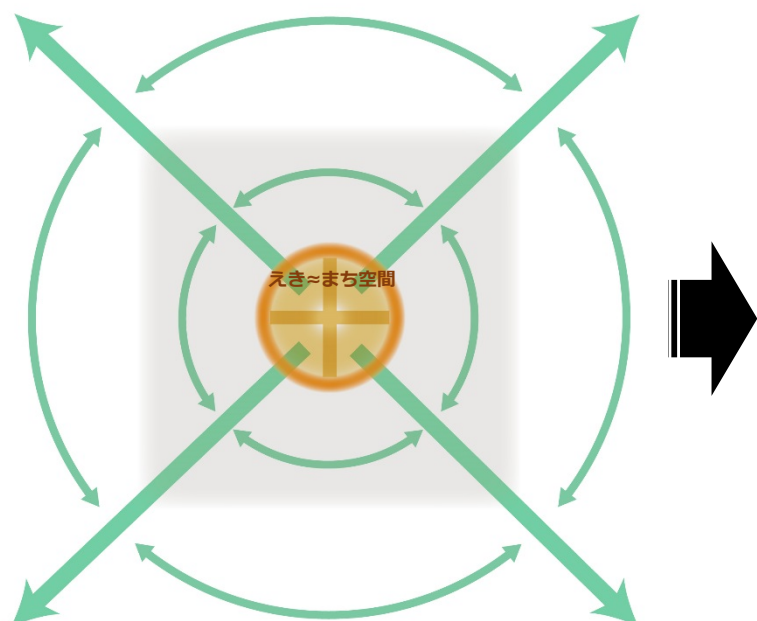
※2 寄り付き交通

「えき～まち空間」、またはその周辺施設を目的地とする交通



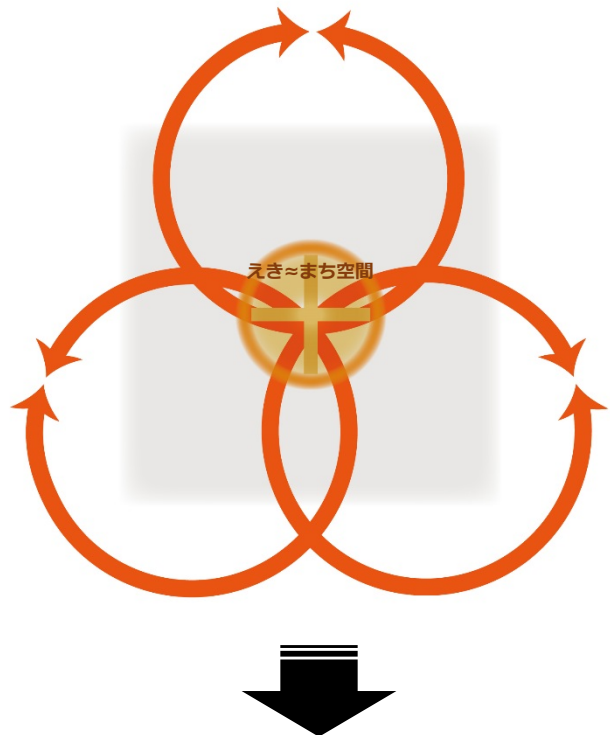
歩行環境の向上

- ・ 快適な歩行空間の確保
- ・ 地域、エリア間の連携強化



公共交通など多様な交通手段の確保

- ・公共交通の乗り換え利便性の向上
- ・多様な交通手段の確保（バスや自転車等）
- ・公共交通への転換



(都心における交通体系のイメージ図)

3-2 交通の考え方

2) 自動車交通のマネジメント

<「えき～まち空間」を実現した場合に想定される課題>

- ・「えき～まち空間」周辺や外周の幹線道路において交通量が増加
- ・幹線道路等の主要な交差点において渋滞が発生

<施策の方向性>

- ・通過交通の円滑な処理
- ・寄り付き交通の利便性の確保
- ・公共交通の利便性向上による自動車からの転換

<具体的な施策>

①通過交通の円滑な処理

- ・交差点改良等による道路の交通処理機能の強化
- ・都心を通過する交通を外周の幹線道路等へ誘導 等

②寄り付き交通の利便性の確保

- ・交通規制の見直しや車線減少による通過交通の流入抑制・混雑緩和
- ・寄り付き交通の適切な案内誘導 等

③公共交通の利便性向上による自動車からの転換

- ・駐車場を活用した公共交通への転換促進施策の実施
(既存駐車場の有効活用やパーク&ライド*の推進)

※ パーク&ライド

郊外の自宅から最寄りの駅等まで自動車を運転して、駐車場に駐車し、そこから電車・バス等公共交通機関を利用する移動方式

- ・交通結節機能の向上による公共交通への転換

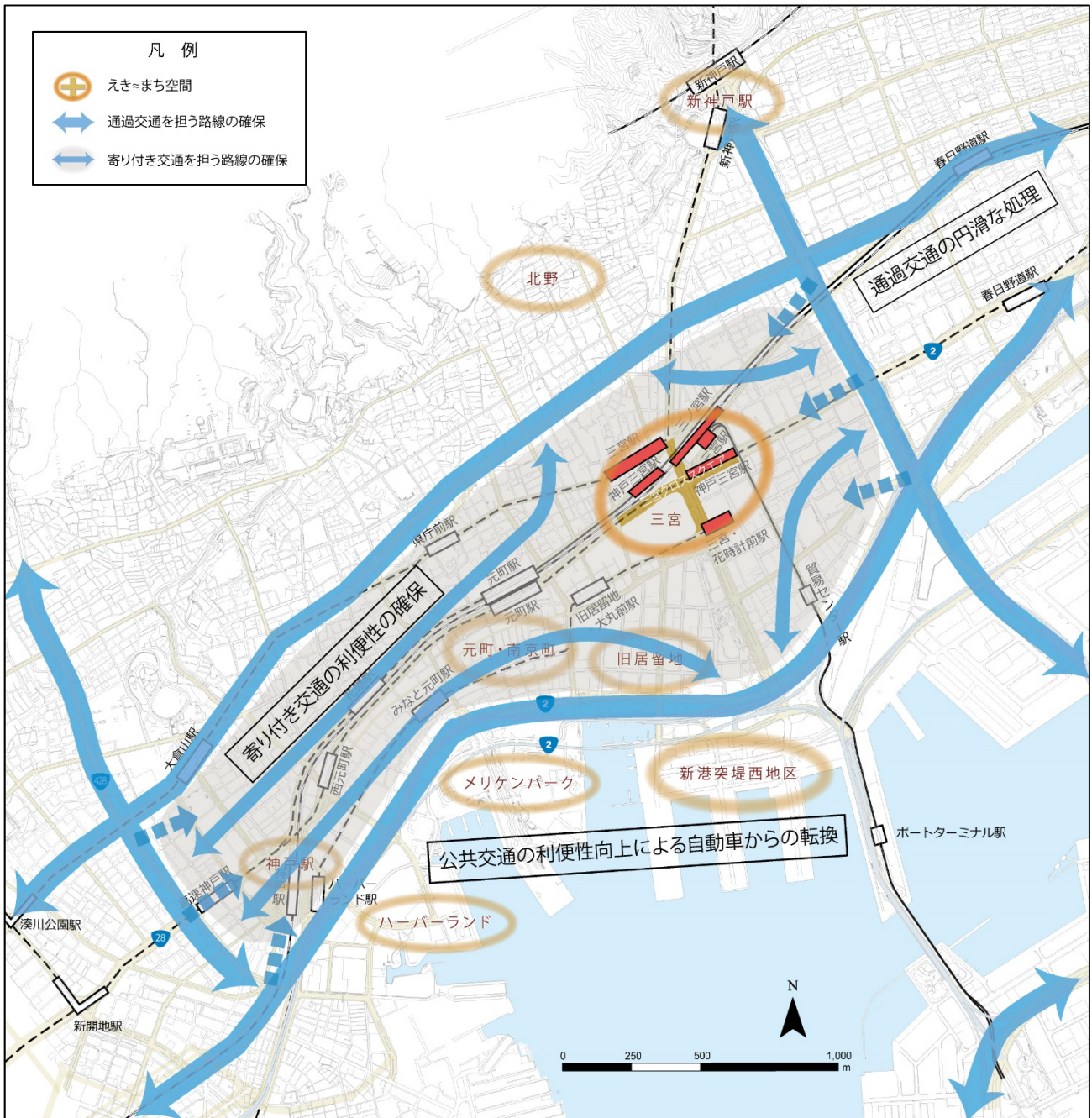
<施策の進め方>

交通状況を見据えながら、必要な対策を実施して段階的に進めていきます

<広域から通過交通を迂回誘導>



<都心の自動車交通ネットワーク>



実現に向けた具体的な施策については、引続き、関係機関と相談・協議を実施予定

3-2 交通の考え方

3) 歩行環境の向上

歩行者のための憩い空間の創出
(KOBE パークレット)



歩行者中心の道路空間へ再配分
(葺合南 54 号線)



施策の方向性

- 快適な歩行空間の確保
- 地域、エリア間の連携強化

凡例

- ⊕ えきまち空間
- ← 歩行者のネットワーク
- 都心の未来の姿「将来ビジョン」対象エリア



整備前の葺合南 54 号線



整備前の三宮プラッツ



案内サインを体系的に整備
(デザインの統一、多言語対応)



都心の新たなにぎわい拠点の活用
(三宮プラッツ イメージ)



3-2 交通の考え方

4) 公共交通など多様な交通手段の確保

様々な移動手段による回遊性向上
(コミュニティサイクルの充実)



公共交通による回遊性向上
(循環バス、連節バス等の運行)

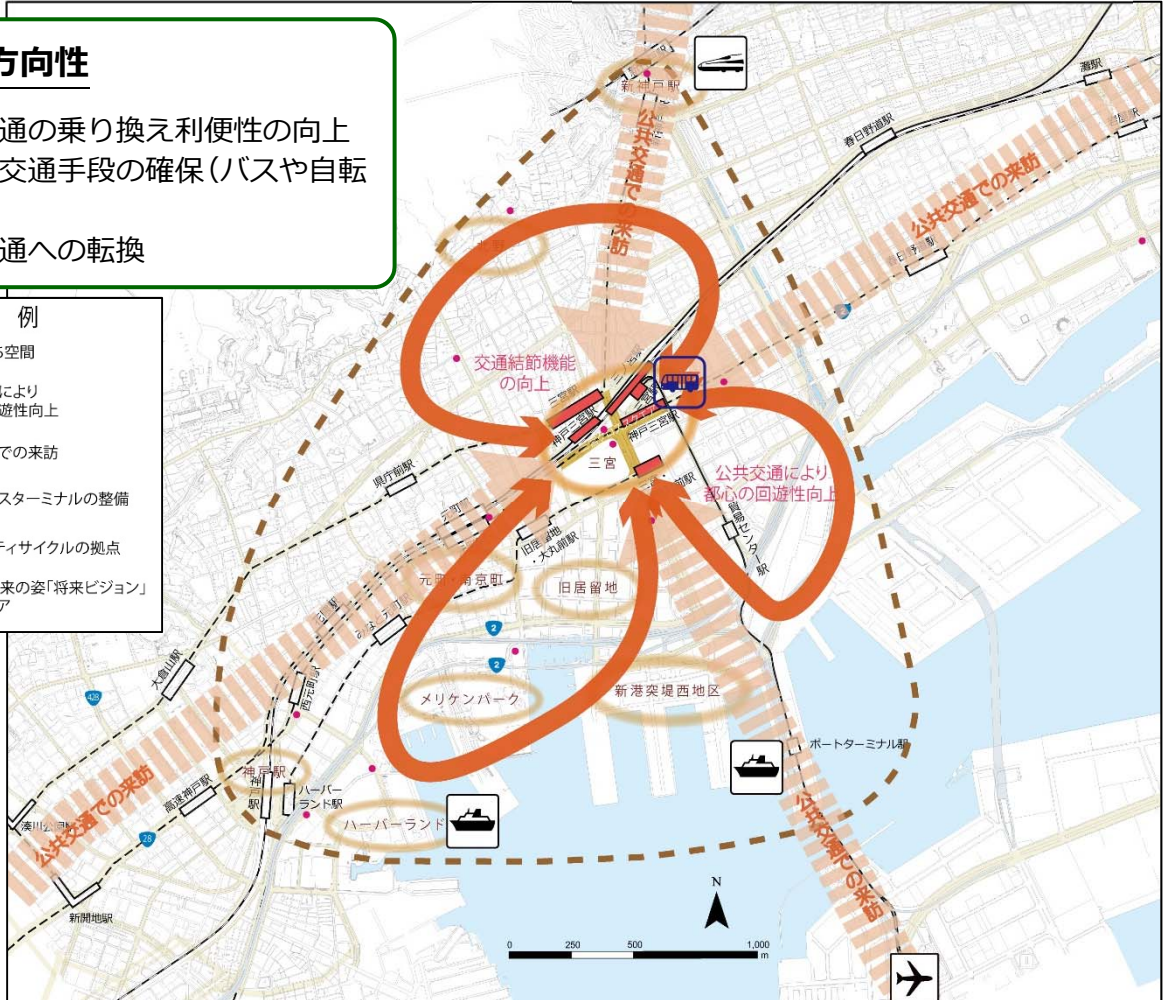


施策の方向性

- 公共交通の乗り換え利便性の向上
- 多様な交通手段の確保 (バスや自転車等)
- 公共交通への転換

凡例

- えきまちな空間
- 公共交通により都心の回遊性向上
- 公共交通での来訪
- 新たなバスターミナルの整備
- コミュニティサイクルの拠点
- 都心の未来の姿「将来ビジョン」対象エリア



中・長距離バス乗降場の集約
(新たなバスターミナルの整備イメージ)



わかりやすく使いやすい料金体系
(ゾーン内均一料金制度※の導入イメージ)



※ **ゾーン内均一料金制度**
一定のエリア内において、鉄道やバス等の公共交通機関の利用料金を一律にする仕組み

(1) 基本的な考え方

「えき～まち空間」は、デザイン都市・神戸の玄関口であり、訪れる人々の活動の拠点です。魅力的で風格あるまちなみは、駅前に降り立つ人、公共空間に集い憩う人、建物内から周囲のまちを眺める人等、「えき～まち空間」に関わる人々の心に残り、最終的に都市の評価にも直結する重要な要素の一つです。

人が主役の絵になる背景として、建築物と公共空間の一体的な景観のあり方を示し、まちのにぎわいや活気を誘発する景観形成に取り組むことで、神戸の歴史や自然環境を背景とした文化の薫りが漂う、訪れた人々の感性に響き、市民が誇りに思える景観を創出していきます。

1) 都市と自然が調和する景観

都市的な建築物と美しい港、緑豊かな六甲山系により構成される一体的な景観は、自然と都市の活力が共存する、神戸の代表的な魅力の一つです。

「えき～まち空間」においては、都市部では希少な「緑の豊かさ」、「水際への開放感」を体感できる眺望景観の確保や視点場の整備、まちなみのコントロールに取り組めます。



自然環境に調和する
都市景観の創出

2) 神戸らしさを感じる“まちなみ形成”

「えき～まち空間」の周辺には、旧居留地や元町、北野地区等、特色の異なる個性豊かな「まち」が隣接しています。

「まち」への導入部として、地域全体の回遊性や魅力の向上を図りつつ、全体として神戸らしさを感じられるような、一体感のあるまちなみ形成に取り組めます。



旧居留地地区のまちなみ

3) 暖かみのある“夜間景観”

神戸の夜間景観は日本を代表する夜景の一つで、山側や海側からのダイナミックなパノラマ夜景を望める多くの視点場を有します。「えき～まち空間」においても、人に身近な部分でのライトアップ等も含め、暖かみのある神戸らしさが夜間も感じられるよう取り組めます。



暖かみのある夜間景観

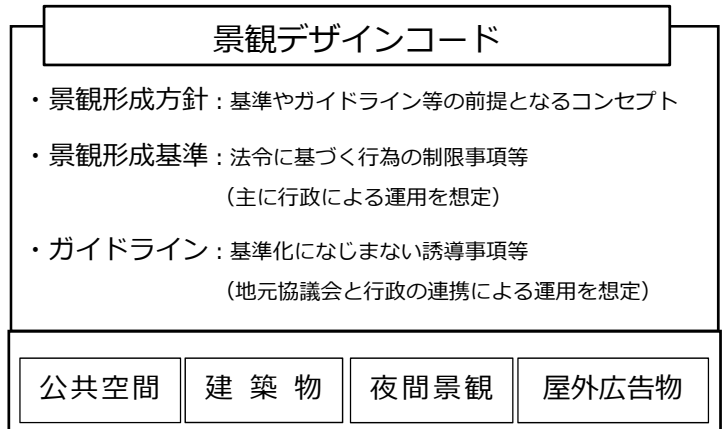
(2) 景観デザインコードの設定

「えき～まち空間」では、公共空間や沿道建築物と、そこを訪れる人々が相互に呼応し、調和することで、高質で洗練された一体的な都市空間を実現するため、景観デザインコードを設定します。この景観デザインコードは、「公共空間」「建築物」「夜間景観」「屋外広告物」の4つの視点のもと、「景観形成方針」「景観形成基準」「ガイドライン」により構成します。

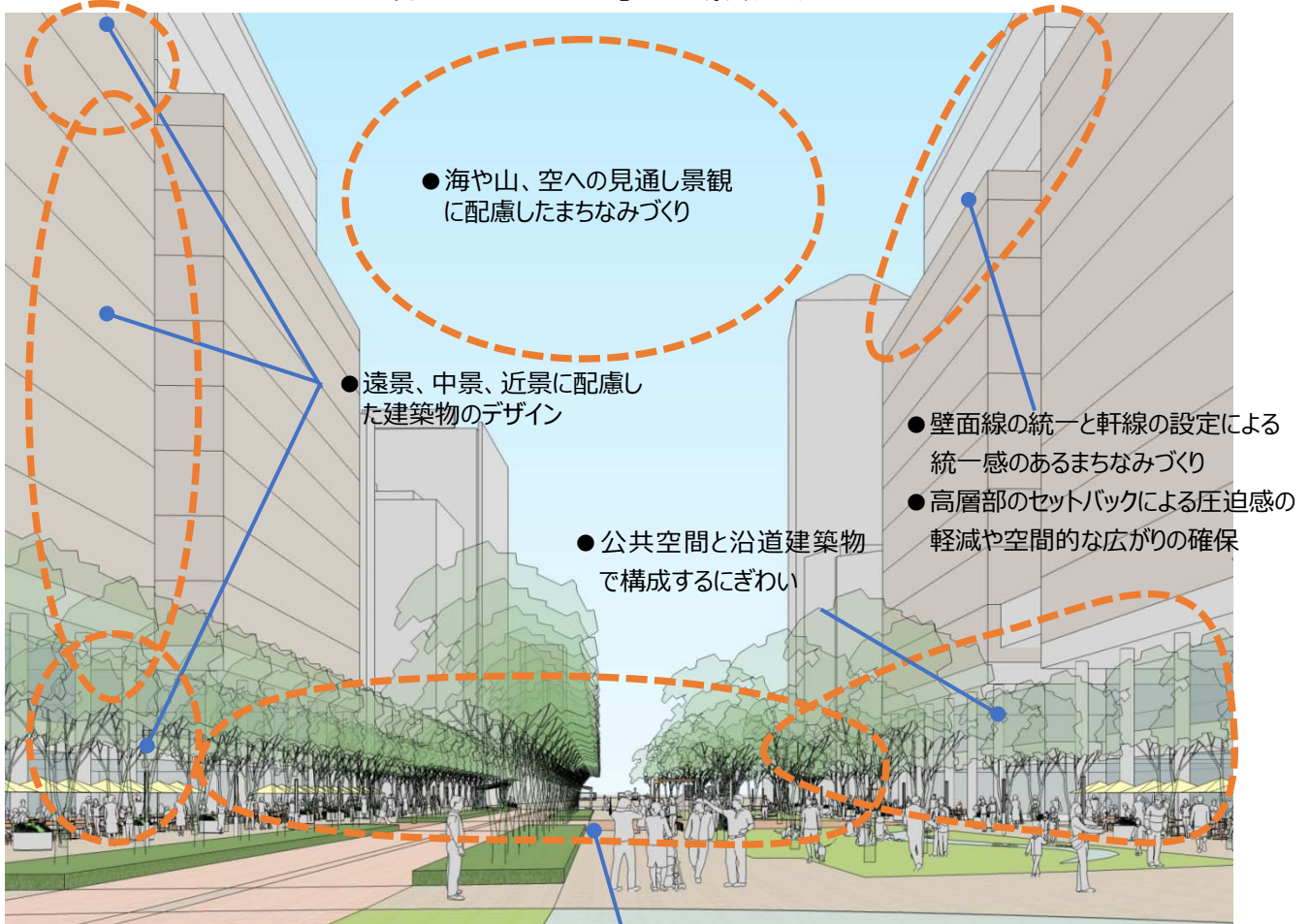
なかでも「三宮クロススクエア」では、訪れる人々へのおもてなしが感じられる居心地の良い空間を創出し、新たなにぎわいを呼び込むことができるよう、空間構成やデザインの考え方を示します。

あわせて、沿道の建築物に対して、大規模建築物でも圧迫感を感じさせにくい壁面位置、公共空間と沿道建築物が相互ににぎわいを呼び込むような構成、神戸らしさを感じる風格あるデザインの考え方等を示します。

また、暖かみのある夜間景観形成や、まちなみと調和した屋外広告物のコントロールなどに取り組みます。



<「三宮クロススクエア」での景観形成イメージ>



●沿道の「まち」の個性を踏まえた、ゾーンごとの公共空間デザイン

3-3 景観の考え方

1) 公共空間の景観形成方針

「えき～まち空間」では、以下の方針に基づき公共空間の魅力創出に取り組みます。なかでも、骨格となる「三宮クロススクエア」においては、都市軸としての特性や、沿道の「まち」の多彩な特性や将来のあり方を踏まえた空間デザインを行います。

<方針>

空間構成	<ul style="list-style-type: none">・訪れる人へのおもてなしが感じられる居心地の良い空間・沿道の建築計画、エリアマネジメント等を踏まえた空間・段階的な整備にも対応できる空間 等
デザイン	<ul style="list-style-type: none">・様々な構成要素（舗装、植栽、照明柱、ベンチ等）の配置やデザインの相互調整・利用する人、周囲のまちなみ、自然環境を引き立たせるシンプルなデザイン、素材・空間の使われ方に応じたベンチの配置 等



2) 建築物の景観形成方針

人々の視界に入りやすい大規模な建築物等のデザインは、まちを初めて訪れる人にとって、地域の特性やまちの魅力を知るための重要な手掛かりです。「えき～まち空間」に立地する建築物は、公共空間と沿道建築物が一体的な都市空間を構成することで相互ににぎわいを呼び込むことができるよう、また玄関口にふさわしい、ゆとりある神戸らしさが感じられるまちなみを形成するよう誘導します。

① 壁面線の統一と軒線の設定による一体感のあるまちなみづくり

「三宮クロススクエア」では、公共空間と建築物相互のにぎわい形成をより密接にし、かつ壁面位置の統一を図るため、道路境界線から建築物低中層部の壁面までの距離が小さくなるように誘導します。また、一体感のあるまちなみの形成と大規模建築物による圧迫感の軽減、空間的な広がり確保するために、建築物の高層部の壁面位置や軒線の高さを誘導します。

② 低層部のにぎわいづくり

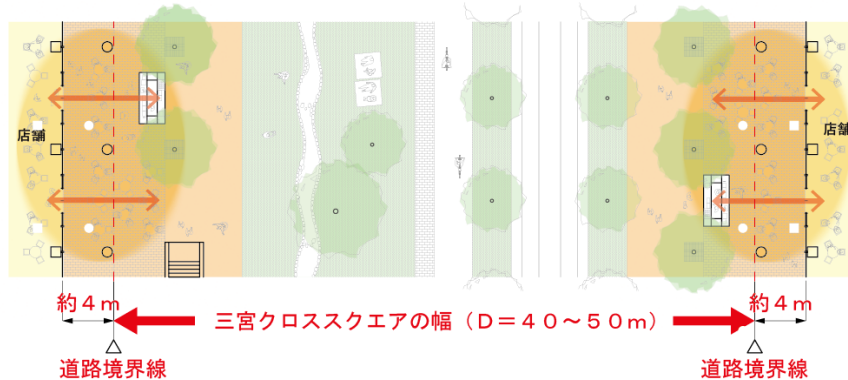
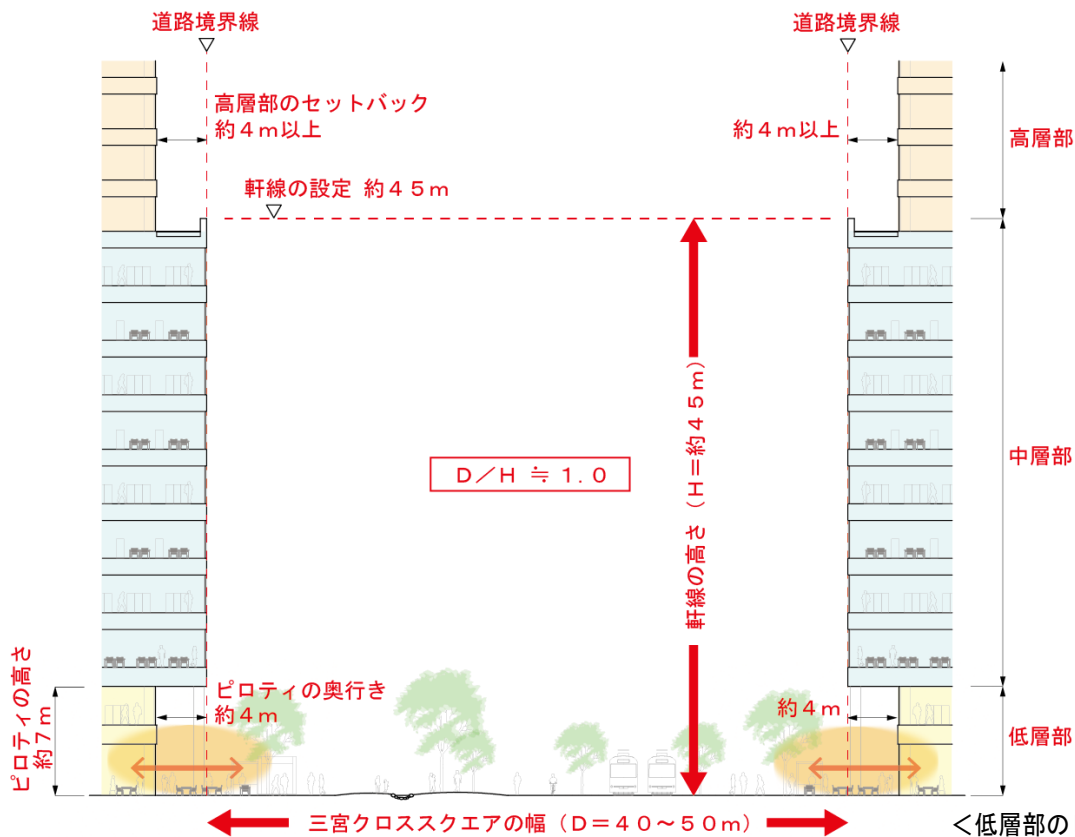
「三宮クロススクエア」と沿道建築物が接する中間領域では、建築物低層部に回廊状のピロティを確保するとともに、デザインの連続性を確保する等、道路境界線を意識させない一体的な空間を構成するよう誘導します。あわせて、にぎわいの原動力となる用途の施設配置や、エリアマネジメントと連携した人々のアクティビティを誘導します。

<ピロティ空間の活用例>



3-3 景観の考え方

＜「壁面線の統一と軒線の設定による一体感のあるまちなみづくり」「低層部のにぎわいづくり」イメージ＞



＜低層部のピロティ空間の特徴と利点＞

- ・ 公共的な空間を建築物にも内包することで、「三宮クロススクエア」との連携を促進し、一体的なにぎわい形成と「まち」の回遊性の向上
- ・ 奥行きのある立体的な空間を建築物低層部に確保し、空間的な豊かさと風格ある景観を演出
- ・ 日射、降雨からのシェルター機能により歩行者空間の確保



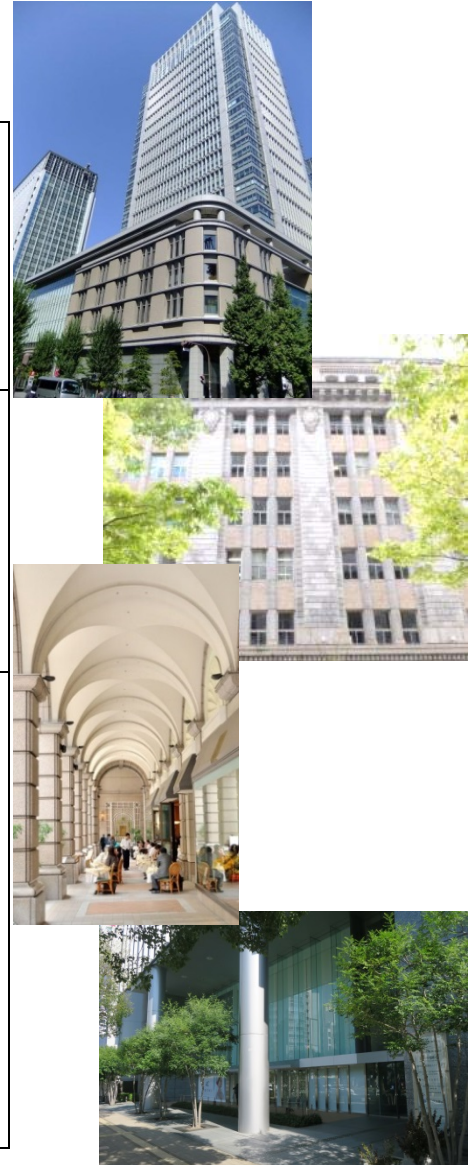
- 中間領域におけるデザインの連続性を確保する
- 公共空間に向けた建築物からのにぎわいと、公共空間のにぎわいが連続して呼応することで活力のある通りを形成する

③高層部・中層部・低層部のデザイン

壁面の位置や軒線等の共通基準の設定に加え、建築物内部のにぎわいが外部からも感じ取れるよう開口部を大きく確保する、風格あるまちなみに調和する穏やかで親しみやすい配色や外壁デザインで構成する等、建築物の高層部、中層部、低層部それぞれの部位できめ細やかな景観形成に取り組みます。

<方針>

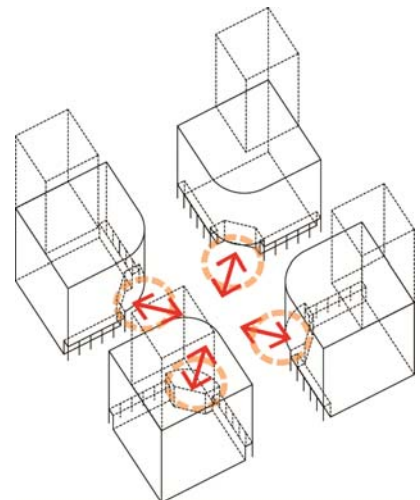
<p>高層部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セットバックによる圧迫感の軽減 ・存在を主張しない穏やかで控えめなデザイン ・遠景眺望を意識した建築物頂部デザイン ・海と山を望む視点場の設定 等
<p>中層部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直方向を基調とした意匠、彫りの深さ ・長大な壁面を避ける分節化、デザインの切り替え ・軒線を積極的に表現するデザイン ・「えき～まち空間」を俯瞰できる視点場の設定 等
<p>低層部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共空間との中間領域を意識したピロティの形成 ・彫りの深い細部まで丁寧なデザイン ・外部から建築物内部のにぎわいを視認しやすい大きな開口部や透過性の素材 ・六甲山をイメージさせる御影石調や木調など、神戸らしい素材感 ・適度な明度で低彩度の色彩、柔らかな形状や素材感を活かした深みのある仕上げ 等



④三宮交差点の顔づくり

三宮交差点は、神戸の玄関口“三宮”を印象づける新しい顔となります。交差点を形成する沿道建築物は、それぞれの「まち」への玄関口となるため、「三宮クロススクエア」に対しての顔づくりや魅力的なコーナーデザインの創出等、「えき～まち空間」の象徴となるような景観形成に取り組みます。

- ・「三宮クロススクエア」に向けてエントランスの確保
- ・交差点広場に向けて人を誘引
- ・周辺のまちなみとの連続性に留意



3) 夜間景観の形成方針

「えき～まち空間」では、駅前に降り立つ人、集い憩う人を夜間も迎え入れる、にぎやかで上品な光の演出が必要です。おもてなし感あふれる暖かみのある景観が夜間も感じられるよう、夜間景観の形成に取り組みます。

<方針>

- ・ 建築デザインの個性を活かす照明で、メリハリのある夜間景観
- ・ ビルトップや軒線のライトアップによる印象的なスカイラインの形成
- ・ 外部に漏れる明かりを意識した建物デザイン
- ・ 暖かみのある色温度照明（3000ケルビン程度）
- ・ 高輝度の直接照明や点滅照明を避けた、穏やかな夜間景観
- ・ 公共空間や外構における植栽等のライトアップ
- ・ 公共空間、建築物、外構の照明計画にかかる相互調整 等

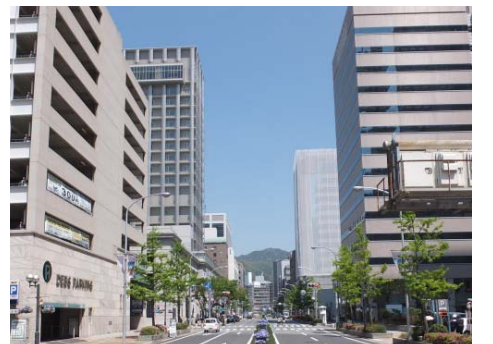


4) 屋外広告物のコントロール方針

屋外広告物は、まちのにぎわい形成に寄与する重要な景観要素ですが、一方で景観の阻害要因とならないよう、地区や通りの景観特性を意識した設置形態、デザイン、内容とすることで、建築物とあわせて魅力的な駅前景観の形成に取り組みます。

<方針>

- ・ 建築物と調和する大きさ、デザイン
(屋上広告物、突出広告物等、眺望や視線を遮る形態を避ける)
- ・ 控えめな色彩や表示内容
(商品名の強調、直接的な表現を避ける)
- ・ 広告物の集約とデザインの共通化 等



(3) 地域との協働と参画による景観づくり

神戸では、長年にわたりまちづくり活動に取り組んできた市民の方々が、個性と活力ある地域特性を形作ってきました。

将来に渡って、神戸らしい様々な地域の魅力をより高めるためには、今後計画される建築物や屋外広告物に関して、民間事業者と行政の間での調整だけでなく、引き続き地域の方々との協働と参画による協議調整が必要です。さらに公共空間についても、その空間を単に利用するだけでなく、管理、活用を含めて地域の方々とともに調整・整備を進めていくことが、長年にわたり使いやすく魅力的な公共空間を維持していくことにもつながります。

このため、「えき～まち空間」にかかる様々な空間構成について、計画段階から完成後の将来形まで、調整の仕組みづくりも含めて、地域の方々との協働と参画による、「えき～まち空間」の形成に取り組んでいきます。



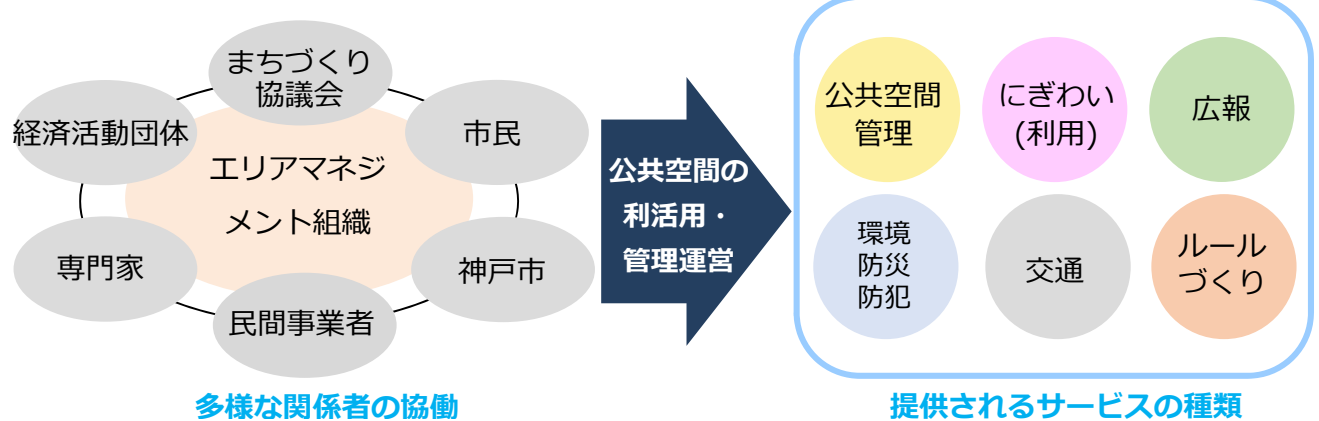
4. 「えき～まち空間」を活かす協働のしくみ

(1) 「えき～まち空間」の公共空間の利活用・管理運営の考え方

「えき～まち空間」を神戸の玄関口にふさわしいにぎわいのある空間とするためには、その公共空間をどのように利活用、管理運営していくかということが重要となってきます。

そのため、市民、民間事業者、行政等が連携して良好な環境や価値を維持、向上させるために、多様な関係者の協働によって、公共空間の利活用、管理運営を行う「エリアマネジメント」に取り組みます。

■エリアマネジメントのイメージ



■「えき～まち空間」でのエリアマネジメントのコンセプト

場所が完成する前から始める活動づくり

小さなゴールを積み重ねた成功体験型のプロセスづくり

ハードの進捗にあわせた成長型の組織づくり

■エリアマネジメントのサービス例

にぎわい（利用）



事業（オープンカフェ）



イベント（フルーツ300人アンサンプル）



イベント（神戸ホワイトディナー）



事業（アーバンピクニック）



イベント（光のデッキ回廊）



イベント（コンサート）

広報・ブランディング



デジタルサイネージ

photo credit: Kuranosuke1214



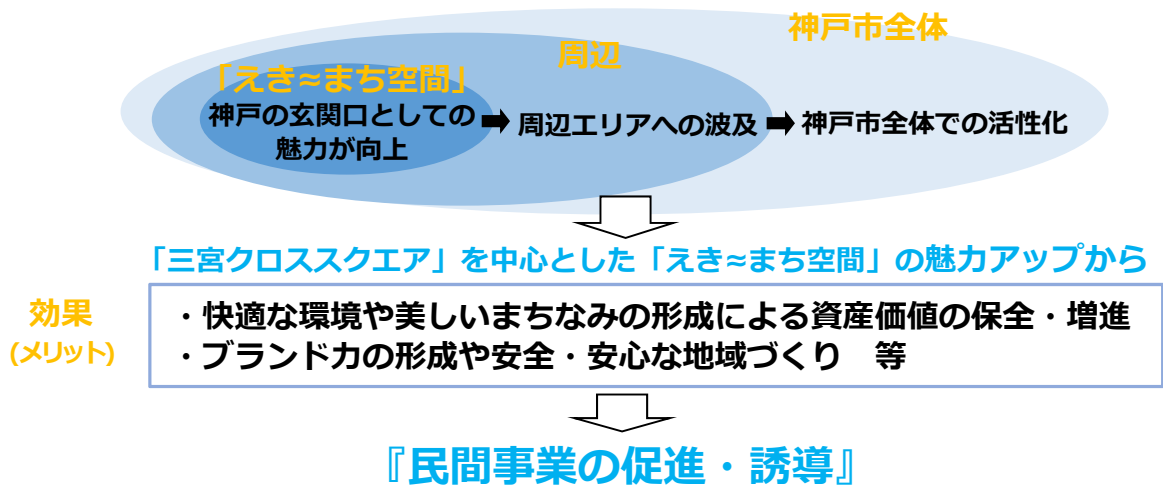
期間誌の発行

4. 「えき～まち空間」を活かす協働のしくみ

(2) 民間事業との協働のしくみ

官民の協働によりスピード感を持って都心の再整備を推進していく必要があるため、民間事業との協働のしくみを民間事業者等のご意見も伺いながら検討を進めます。

1) エリアマネジメントによる民間事業の促進・誘導のイメージ



2) 民間開発事業を促進・誘導する方策の具体例

① 建物更新を促進するためのインセンティブの例

- ・ 商業、業務系の建築物に対する容積率の緩和
- ・ 附置義務駐車場の見直し
- ・ 経済インセンティブの拡充（補助金、企業家支援等） 等

② 民間開発事業にあわせて、民間事業者が公共空間を創出するためのインセンティブの例

- ・ 民間開発事業の中でのボイド整備や地下通路やデッキの動線強化に対する補助の検討
 - ・ 特定都市再生緊急整備地域に関する特例措置 等
- ⇒ 都市計画の特例（都市再生特別地区による容積緩和等）
- ⇒ 民間都市再生事業計画の策定による税制特例・金融支援

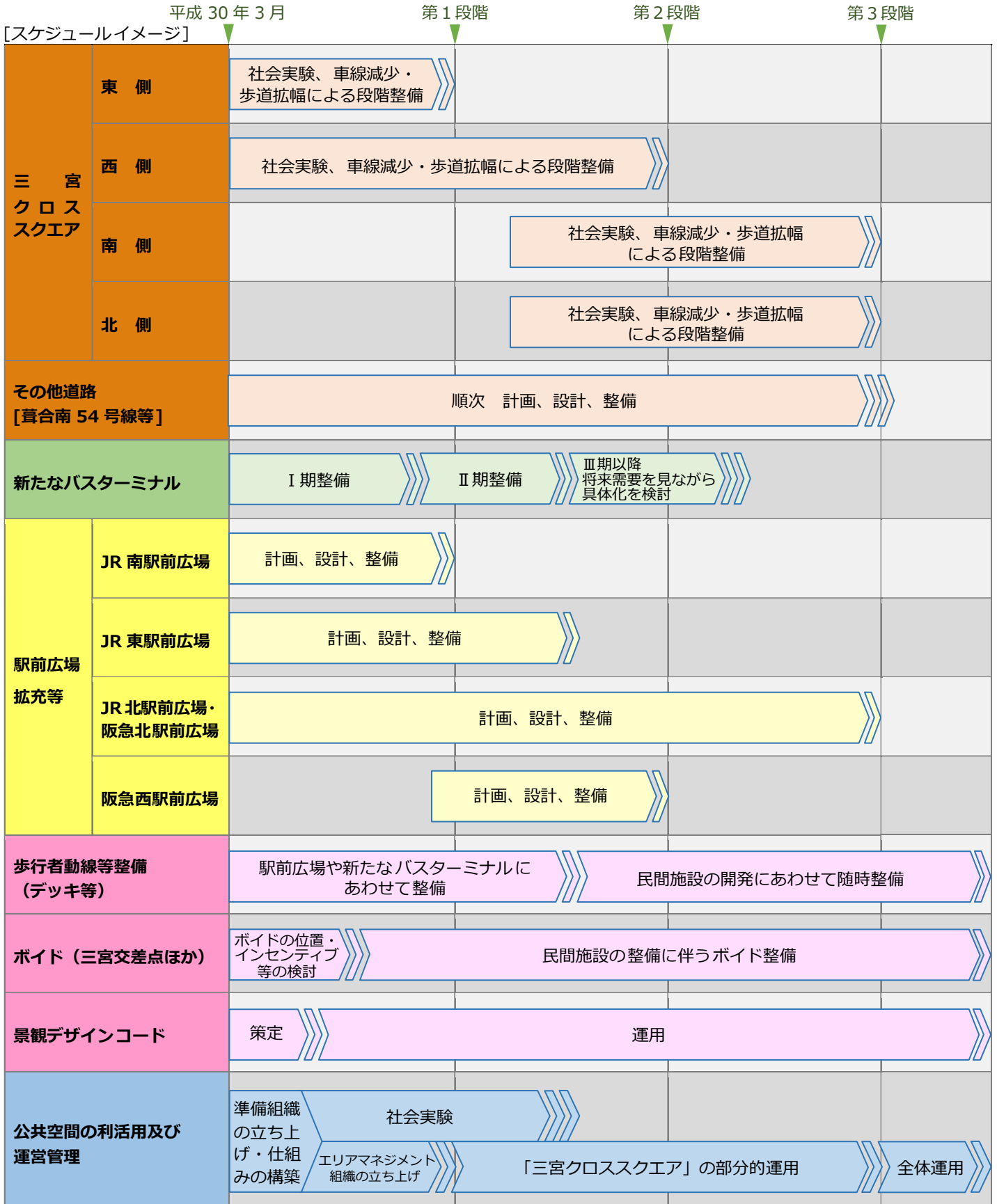
■ エリアマネジメントのサービス例



5. 今後の進め方

「えき～まち空間」は、公共事業、民間開発事業ともに段階的に進んでいきます。なかでも、「三宮クロススクエア」については、社会実験や周辺の交通対策を行いながら、徐々に車線を狭め歩道を拡幅していく等、段階的に進めていく必要があります。

また、「えき～まち空間」の実現に向けて、公共事業や民間開発事業について協議・調整する場を設ける等、官民が連携して推進していく仕組みを検討します。



「スケジュールイメージ」は、主に公共施設部分を示したものです。今後、関係者と協議・調整の上、変更になる場合があります。

5. 今後の進め方

第1段階



第2段階



第3段階

